

令和 4 年度 事業報告書

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

目 次

I	はじめに	1
1	評議員会・理事会等	2
(1)	評議員会	2
(2)	理事会	2
(3)	評議員選任・解任委員会	3
(4)	役員等名簿	4
2	神奈川県との協定について	5
(1)	神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定	5
3	委員会・協議会	5
(1)	個人情報保護委員会	5
(2)	厚木看護専門学校運営協議会	5
4	運営組織	6
5	役職員	7
II	事業の実施状況	8
1	福祉事業	8
(1)	福祉施設利用状況	11
(2)	地域福祉支援事業の状況	11
(3)	入退所審査会の開催状況	11
(4)	在所児(者)の状況	12
(5)	退所児(者)の状況	13
(6)	施設別苦情受付件数	14
(7)	利用者満足度調査	14
(8)	各福祉施設における特徴的な利用者支援	15
(9)	各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況	16
(10)	給食業務の状況	19
2	病院事業	20
(1)	病院利用状況	20
(2)	入院及び外来患者の状況	21
(3)	科別手術の状況	22
(4)	紹介・逆紹介件数実績	22
(5)	セカンドオピニオン実績	22
(6)	退院患者の状況	23
(7)	地域別入院患者の状況	24
(8)	薬剤業務の状況	25
(9)	検査業務の状況	25
(10)	放射線業務の状況	26
(11)	給食業務の状況	27
(12)	理学療法の状況	28
(13)	作業療法の状況	28

(14) 言語訓練の状況	28
(15) 心理検査等の状況	29
(16) 職能訓練の状況	29
(17) 体育指導の状況	30
(18) リハビリテーション工学の状況	30
(19) ブレース・クリニックの実施状況（含む脳卒中装具外来）	31
(20) 総合相談室の状況	31
(21) 相談の状況	32
(22) 地域連携室の状況	33
3 リハビリテーション研究事業	34
(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発	34
(2) 神奈川リハビリテーション病院倫理委員会承認の研究テーマ	34
(3) 情報提供・情報発信	35
(4) 研究発表会	36
(5) かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）の取組	37
(6) さがみロボット産業特区等への協力	38
(7) 障害者スポーツの支援	39
(8) 専門職向けセミナーの開催	40
(9) メディアを活用した情報発信	41
4 地域リハビリテーション支援センター事業	42
(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）	42
(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）	43
(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）	43
(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）	45
5 厚木看護専門学校事業	49
(1) 在籍者の状況	49
(2) 卒業生の就職等の状況	50
(3) 応募者の状況	50
6 地域の保健・医療・福祉への支援事業	51
7 職員確保対策事業	53
(1) 職員充足状況	53
(2) 学資金等の貸付事業の状況	53
(3) こども園保育状況	53
8 職員福利厚生事業	54
(1) 職員宿舍入居状況	54
(2) 健康診断実施状況	54
(3) 貸付事業の状況	54
9 経営計画に基づく取組状況	55
(1) 病院の取組状況	55
(2) 福祉施設の取組状況	56
■令和4年度事業計画の数値目標と実績	57
事業報告書の附属明細書	58

I はじめに

国内で新型コロナウイルス感染症が確認されてから３年以上が経過しましたが、この間、このウイルスは次々と変異を重ね、感染の波は第８波にまで至りました。現在は、これまでのような厳しい状況は改善されつつあるものの、依然として国民生活や経済への影響は続いています。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響による原油・原材料価格の高騰等も重なり、社会は大きな試練に直面しています。

こうした中、神奈川県では、新型コロナウイルス感染症患者の急増に対処し、医療崩壊を防ぐために「神奈川モデル」を構築するとともに、ワクチン接種の促進等にも取り組んできました。また、障害福祉の分野においては、共生社会の実現に向けて、障害者の地域生活移行等を推進するための「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」が令和５年４月１日から施行されたところです。

当事業団においては、病院・福祉施設等の運営にあたり、患者・利用者の安心安全を確保するために新型コロナウイルス感染症に対する一部の制限を残しながら、利用率の回復に努めています。また、原油・原材料価格の高騰等により、経営に大きな影響がでておりますが、職員一丸となって節電・節減に取り組む等、効率的な運営を心がけてきました。

今後も新型コロナウイルス感染症等への適切な対策に取り組みながら、より一層効率的にリハビリテーションセンターを運営するとともに、センターの役割を踏まえ、国や県の施策に幅広く協力し、医療・福祉に対する県民からの期待に応えられるよう、事業を推進してまいります。

1 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

令和4年度は、評議員会を1回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和4年 6月28日	第1号議案	令和3年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の決算について	可決	三共横浜 ビ ル
	第2号議案	理事の選任について	可決	
	報告事項1	令和3年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の事業報告について	了承	

(2) 理事会

令和4年度は、理事会を4回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和4年 6月13日	第1号議案	令和3年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業報告及び決算報告書の承認について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 (Zoom) の 併 用
	第2号議案	新理事候補者の承認について	可決	
	第3号議案	定時評議員会招集の決議について	可決	
	報告事項1	令和3年10月から令和4年3月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について	了承	
第2回 令和4年 6月28日	第1号議案	専務理事の選定について	可決	三共横浜 ビ ル
第3回 令和4年 11月29日	第1号議案	給与規程の一部改正について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 (Zoom) の 併 用
	第2号議案	感染症対応処遇改善手当に関する規程の一部改正について	可決	
	報告事項1	令和4年4月から令和4年9月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について	了承	
	報告事項2	新型コロナウイルス感染症対策に係る国等の支援事業への申請状況について	了承	
	報告事項3	令和4年度（令和3年度対象）監査委員監査について	了承	
	報告事項4	令和3年度事業報告書の訂正について	了承	

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第 4 回 令和 5 年 3 月 29 日	第 1 号議案	令和 4 年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団予算の補正について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 (Zoom) の併用
	第 2 号議案	令和 5 年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業計画及び予算について	可決	
	第 3 号議案	手術手当に関する規程の制定について	可決	
	第 4 号議案	職員給与規程の一部改正について	可決	
	第 5 号議案	厚木看護専門学校規程の一部改正について	可決	
	第 6 号議案	育児休業規程の一部改正について	可決	
	第 7 号議案	社会福祉施設苦情解決委員の選任について	可決	
	第 8 号議案	役員賠償責任保険の締結について	可決	
	報告事項 1	神奈川県の監査の実施状況について	了承	

(3) 評議員選任・解任委員会

令和 4 年度は、評議員選任・解任委員会を開催しなかった。

(4) 役員等名簿

(令和5年3月31日現在)

	氏 名	現任期間
評 議 員	井出 康夫	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	加藤 隆	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	川島 志保	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	竹村 克二	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	玉垣 努	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	内藤 則義	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	山下 巖	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
理 事 長	小宮 重寿	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで
専務理事	霜尾 克彦	R4.6.28からR5.6 定時評議員会開催日まで
理 事	笹生 正人	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで
〃	篠原 正治	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで
〃	杉山 肇	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで
〃	村井 政夫	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
監 事	小川 喜道	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで
〃	中元 文徳	R3.6.29からR5.6 定時評議員会開催日まで

会計監査人	奥津 勉	(奥津公認会計士共同事務所)
-------	------	----------------

※評議員、理事及び監事は五十音順である。

2 神奈川県との協定について

(1) 神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定

事業団は、平成 28 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで、神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理者として指定されている。

指定管理業務の運営にあたっては、神奈川県総合リハビリテーションセンター条例第 4 条の規定により、神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理業務について神奈川県と事業団で基本協定を締結し、必要な事項（協定の目的、管理物件、協定期間、業務範囲、事業計画等の策定等）を定め業務を運営している。

また、基本協定に定めるものの他、年度ごとに定める必要がある事項（指定管理料の支払い方法等）については、年度協定書を締結している。

3 委員会・協議会

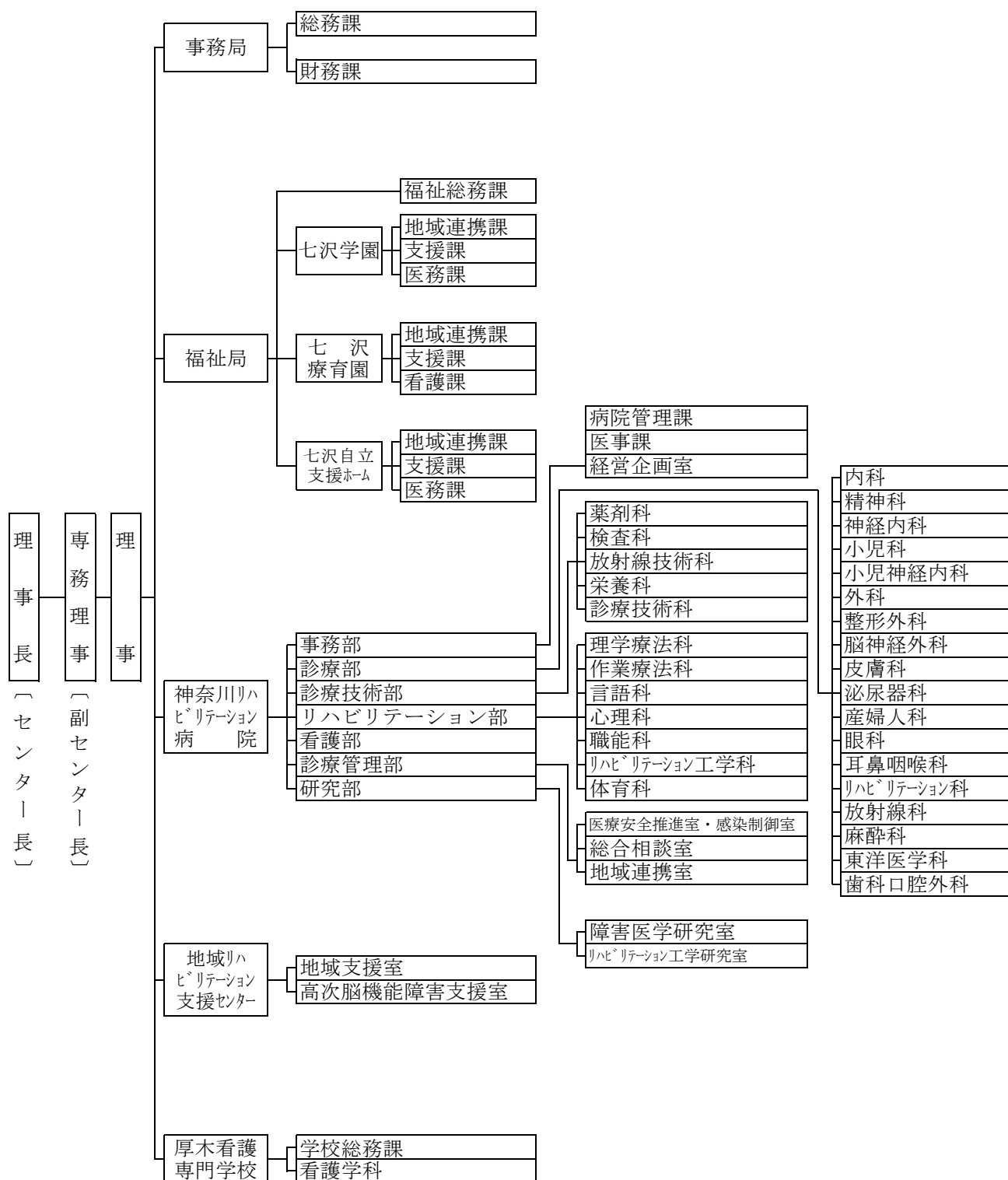
(1) 個人情報保護委員会

区 分	開 催 年 月 日	議 題 等
令和 4 年度	令和 5 年 2 月 17 日	1. 報告事項 (1) 令和 4 年分個人情報開示請求状況について (令和 4 年 1 月 1 日から令和 4 年 12 月 31 日現在)

(2) 厚木看護専門学校運営協議会

区 分	開 催 年 月 日	報 告 事 項
第 25 回	令和 5 年 3 月 16 日	1. 厚木看護専門学校の現状について 2. 自己点検・自己評価、学生確保対策等について 3. その他

4 運営組織（令和5年3月31日現在）



5 役 職 員

令和5年3月31日の職員数は次のとおりである。

		(単位 人)						
施設名	職 種	医 師	看護職員	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	そ の 他 医療職員	指 導 員	そ の 他 職 員
役	員	2	0	0	0	0	0	2
事	務 局	0	0	0	0	2	0	13
七 沢 学 園		0	2	0	0	1	58	2
七 沢 療 育 園		1	22	1	0	0	25	2
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		1	5	2	1	1	34	1
神 奈 川 リ ハ 病 院		31	207	54	30	48	29	64
地 域 リ ハ 支 援 セ ン タ ー		0	0	1	1	0	1	1
厚 木 看 護 専 門 学 校		0	0	0	0	0	0	25
計		35	236	58	32	52	147	110

注1 その他医療職員とは、薬剤師、臨床検査技師、聴能検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士及び視能訓練士をいう。

2 指導員とは、児童指導員、生活支援員、視覚障害者支援員、職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー及び心理判定員をいう。

3 その他職員とは、理事、事務職員、工学技術員、診療情報管理士、専任教員、研究員、看護補助員、機能訓練作業員、クランク及び保育士をいう。

Ⅱ 事業の実施状況

1 福祉事業

七沢学園（福祉型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢学園は、知的障害児を対象にした福祉型障害児入所施設と、成人を対象とした障害者支援施設との複合施設である。

福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和4年度の利用者数は、入所が9人、退所が8人、一日平均入所者数は26.0人で、一日平均入所率は86.7%であった。

また、虐待等の措置入所のほか、1ヵ月～6ヵ月の施設入所を通して、ADLの評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用する「集中療育」を実施しており、令和4年度の利用者実人数は3名であった。

障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が7人、退所が5人、一日平均入所者数は21.8人で、一日平均入所率は72.5%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は17.3人、一日平均利用率は91.1%であった。

自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は7.6人、一日平均利用率は45.0%であった。

地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ582人、知的障害児通所機関巡回指導0回であった。

児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行うこととしている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い利用制限を行った為、児童・成人ともに例年より少ない利用であった。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数46人、延べ人数305人であった。

地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活訓練の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した。実人数6人、延べ人数468人を受け入れた。

七沢療育園（医療型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢療育園では重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。

令和4年度の入所事業は、入所及び退所は0人であった。また、一日平均入所者数は35.9人で、一日平均入所率は92.0%であった。

地域福祉支援事業の内、短期入所事業では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い短期利用者の利用制限を行った為、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数158人に対し延べ928人の短期入所となった。

「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」は利用者1人であった。なお、神奈川リハビリテーション病院（以下「神奈川リハ病院」という。）の小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。令和4年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は27人である。

七沢自立支援ホーム（障害者支援施設）

七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。

肢体不自由者については、神奈川リハ病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。令和4年度の施設入所支援の利用者数は、入所が20人、退所が27人、一日平均入所者数24.8人で、一日平均入所率は62.1%、また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が25.0人、一日平均利用率は59.5%であった。

一方、中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。令和4年度の施設入所支援の利用者数は、入所が16人、退所が14人、一日平均入所者数9.2人で、一日平均入所率は92.0%、また日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が11.2人、一日平均利用率は62.5%であった。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に、外出・外泊制限を実施したことで、前年度に引き続き利用を敬遠する傾向が強く、七沢自立支援ホーム全体としては、施設入所支援の一日平均入所者数は34.0人で、一日平均入所率は68.1%、日中支援活動（自立訓練）の一日平均利用者数は36.3人で、一日平均利用率は60.4%であった。

地域福祉支援事業では地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数14人、延べ598人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和4年度の訪問訓練実績は1件であった。

また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数20人、延べ114人の受入れを行った。

その他に受託評価事業では、肢体不自由児（者）を対象とし、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハ病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、令和4年度の利用者数は実人数10人、延べ50人であった。また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児（者）を対象に神奈川リハ病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数7人、延べ35人であった。

補装具製作では、補装具製作所として神奈川県指定を受け、神奈川リハ病院と連携して、施設利用者や外来患者等の義肢・装具など65件の補装具製作及び修理を行った。

苦情解決の実施状況

各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員を置き、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、令和4年度の苦情等の受付件数は苦情、相談、要望を合わせて福祉施設全体で78件であった。内訳は全て委員受付であった。

社会福祉施設サービス自己評価会議の実施状況

社会福祉施設サービス自己評価会議を設置し、各福祉施設が提供する福祉サービスの質について自己評価を行い、サービスの質の確保・向上に努めているが、令和4年度の実施状況は次のとおりであった。

施 設 名	実 施 日	実 施 結 果
七沢学園	令和4年12月5日	福祉職員を対象職員とした福祉サービスの質に関する各設問への回答結果平均では70.8%が「できている」との回答を示し、中でも「人権擁護」の設問に対しては、①体罰虐待等の人権侵害の防止策が90.6%、②相談や苦情申し立ての体制が98.4%「できている」と回答しており、昨年度よりもさらに高い評価となった。虐待防止に関わる各種研修などの取り組みにより各職員の意識の向上・定着を示している。また、昨年同様「個別支援計画の策定や見直しのために会議等を開催していますか」の設問に対しては、95.3%が「できている」回答しており、個別支援計画に基づく計画的な支援の実践と、都度会議等を通じて見直しを図る学園のケアマネジメントのシステムが職員間に定着していることを示している。また、昨年度、評価の低かった「食事」については、3項目とも向上しており、栄養科との連携充実が考えられる。 反面、「できている」の回答が50%を下回った項目として、「余暇・レクリエーション」45.3%、「外出」21.9%、「外泊」41.3%、「地域への事業所開放」36.5%、「利用者の主体的な社会参加」34.4%、「地域行事への参加」19.0%、「地域との交流」35.9%などがあり、昨年同様、コロナ禍という特殊な社会的制約の影響を受けている点があげられる。地域との連携、移行支援の難しさが示される結果となった。
七沢療育園	令和5年2月20日	人権への配慮、利用者に応じた個別支援プログラム、日常生活支援サービス等全項目のトータルでは79%が出来ているとの回答があった。利用者の意思表示が困難な重度心身障害児者の支援を行うなか多くの職員が利用者目線に立ち支援を行っている状況を確認した。しかし、職員の男女比率の関係で、女性利用者は同姓介護をできていると感じている職員が多かったが、男子利用者の更衣など女性職員が行う場合があるなど努力を要すると25%の職員が感じていた。また、同様に環境整備で、医療機器等がベッド周りにありコード等が煩雑になった、空いた時間は利用者のそばに行く努力を要するなどの指摘も伺われ今後とも一層の意識向上に向けていきたい。また、職員の研修においてはコロナ禍で、外部研修を制限したため58%の職員が努力を要すると関しており、今後学習機会を提供していきたいと考える。
七沢自立支援ホーム	令和5年3月12日	利用者に対する人権意識は概ね高く、96.2%の職員が苦情申し立てのできる体制になっていると回答しているが、一方で主体的な社会参加への後押しや情報提供については不足していると感じている職員が多かった。必要性は感じているものの積極的な支援にはつながっていない。3年に及ぶコロナ感染防止対策の影響で、外出、外泊や他事業所の交流、行事参加、地域との連携等を制限せざるを得ず、社会参加を促進する目的の施設でありながら、十分な機能を発揮できなかったこともマイナス要因であろう。 施設内で生活する期間が長かったためか、利用者サービスに対する自己評価は高く、快適な生活を提供する事を心がける職員が多かった。

(1) 福祉施設利用状況

ア 施設入所支援

(単位 人)

区分	施設名	七 沢 学 園			七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム			計
		児 童	成 人	小 計	肢 体 不 自 由	視 覚 障 害	小 計	
定 員		30	30	60	40	10	50	150
前 年 度 末 在 所 者 数		24	22	46	35	7	35	116
入 所 者 数		9	7	16	158	20	36	210
退 所 者 数		8	5	13	158	27	41	212
一 日 平 均 入 所 者 数		26.0	21.8	47.8	38.4	9.2	34.0	120.2
一 日 平 均 入 所 率 (%)		86.7	72.5	79.6	96.1	62.1	68.1	80.7
年 度 末 在 所 者 数		25	24	49	35	21	30	114
年 間 延 入 所 者 数		9,493	7,944	17,437	14,028	9,065	3,358	43,888

注1 年度末在在所者数には、3月31日退所者は含まない。注2 七沢療育園は空床型のため、短期利用者を含む。

イ 日中活動支援（障害者支援施設）

(単位 人)

施設名 サービス名 区分	七 沢 学 園 (成 人)			七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム			計
	生 活 介 護	自 立 訓 練 (生 活 訓 練)	小 計	肢 体 不 自 由	視 覚 障 害	小 計	
				自 立 訓 練 (機 能 訓 練)	自 立 訓 練 (機 能 訓 練)		
定 員	19	17	36	42	18	60	96
日 中 訓 練 年 間 延 入 数	4, 204	1, 858	6, 062	6, 077	2, 732	8, 809	14, 871
一 日 平 均 利 用 者 数	17. 3	7. 6	24. 9	25. 0	11. 2	36. 3	61. 2
一 日 平 均 利 用 率 (%)	91. 1	45. 0	69. 3	59. 5	62. 5	60. 4	63. 7

注 七沢療育園及び七沢学園（児童）は、児童福祉法による入所であることから日中訓練には該当しない。

(2) 地域福祉支援事業の状況

区分	施設名	七 沢 学 園 (児 童)			七 沢 学 園 (成 人)			七 沢 学 園 (小 計)			七 沢 療 育 園			七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム			計		
		実 績	延 入	員 数	実 績	延 入	員 数	実 績	延 入	員 数	実 績	延 入	員 数	実 績	延 入	員 数	実 績	延 入	員 数
家 族 一 日 利 用		0人	0人	0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
家 族 短 期 入 所		0人	0人	0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
短 期 入 所		(実)6人	18人	(実)22人	172人	(実)28人	190人	(実)158人	928人	(実)20人	114人	(実)206人	1,232人						
電 話 ・ 来 園 に よ る 相 談 支 援		189人	372人	132人	210人	(実)321人	582人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	321人	582人	
知 的 障 害 児 者 通 所 機 関 等 巡 回 指 導		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0回	0人	0人
療 育 訪 問 指 導 事 業		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	4回	4人	0人	0人	4回	4人						
重 心 親 子 教 室		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0回	0人	0人	0人	0回	0人						
通 所 事 業 ((1)イの内数)		0人	0人	(実)6人	468人	(実)6人	468人	0人	0人	(実)14人	598人	(実)20人	1,066人						
受 託 評 価		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	(実)17人	85人	(実)17人	85人						
一 時 保 護 (児 童 福 祉 法 第 33 条)		(実)46人	305人	0人	0人	(実)46人	305人	(実)1人	2人	0人	0人	(実)47人	307人						

注 数値は年間実施回数及び年間延入数。 七沢学園の知的障害児者通所機関巡回指導と療育訪問指導事業は、児童・成人共通。

(3) 入退所審査会の開催状況

区分	施設名	七 沢 学 園 (児 童)	七 沢 学 園 (成 人)	七 沢 療 育 園	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム (肢 体 不 自 由)	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム (視 覚 障 害)	計
開 催 回 数 (回)		14	11	12	14	14	65
実 数 (人)		27	16	348	18	29	438

(4) 在所児（者）の状況（令和5年3月31日現在）

ア 児童相談所

(単位 人)

施設名 \ 児童相談所		横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	計	中央	小田原	平塚	厚木	鎌倉・三浦	大和綾瀬	計
七沢学園（児童）	在所児数	0	0	0	0	0	(1) 2	2	10	7	0	5	(1) 26
七沢療育園	在所児者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	在所児者数	0	0	0	0	0	2	2	10	7	0	5	26
	構成比 (%)	-	-	-	-	-	7.7	7.7	38.5	26.9	-	19.2	100.0

注 七沢療育園は医療型障害児入所施設である。

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

イ 市町村

(単位 人)

施設名 市町村	七沢学園 (成人)		七沢療育園	七沢自立支援ホーム (肢体不自由)		七沢自立支援ホーム (視覚障害)		計		
	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入所者数 構成比 (%)
横 浜 市	0	1	0	4	0	3	0	7	1	7.7
川 崎 市	3	0	0	3	0	0	0	6	0	6.6
横 須 賀 市	0	0	2	1	0	0	0	3	0	3.3
平 塚 市	5	0	5	2	0	1	1	13	1	14.3
鎌 倉 市	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2.2
藤 沢 市	3	0	1	0	0	0	0	4	0	4.3
小 田 原 市	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1.1
茅 ケ 崎 市	0	0	4	0	0	0	0	4	0	4.4
逗 子 市	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1.1
相 模 原 市	2	0	3	2	0	1	1	8	1	8.7
三 浦 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.1
秦 野 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
厚 木 市	(1) 4	0	5	2	0	0	6	(1) 11	6	12.0
大 和 市	0	0	2	0	0	0	1	2	1	2.2
伊 勢 原 市	3	1	1	(1) 1	0	0	1	(1) 5	2	5.5
海 老 名 市	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1.1
座 間 市	0	0	6	1	0	1	0	8	0	8.8
南 足 柄 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.1
綾 瀬 市	1	0	0	1	0	0	0	2	0	2.2
大 磯 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
二 宮 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
葉 山 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
箱 根 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
真 鶴 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
湯 河 原 町	0	0	0	0	0	0	1	0	1	-
寒 川 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
愛 川 町	0	0	3	1	0	0	0	4	0	4.4
清 川 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
中 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
大 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
松 田 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
山 北 町	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1.1
開 成 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	(1) 25	(0) 2	(0) 35	(1) 18	(0) 0	(0) 7	(0) 12	(2) 85	14	93.2
県 外	0	0	0	4	0	2	0	6	0	6.6
合 計	(1) 25	(0) 2	(0) 35	(1) 22	(0) 0	(0) 9	(0) 12	(2) 91	14	100.0

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

注 七沢療育園は療養介護事業分である。

(5) 退所児（者）の状況
ア 退所先の状況

区 分			七次学園						七次療育園		七次自立支援ホーム						計						
			児童		成人		小計				肢体不自由		視覚障害		小計								
			実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)					
地域生活	家庭	家族同居	就 労 継 続 支 援 B 型							(2)	4	(1)	2	(3)	6	6							
			通 所 サ ー ビ ス						112		2			2	114								
			高 校 ・ 大 学																				
			進 学 先 特別支援学級・特別支援学校	2			2		43							45							
			三療養成機関(あんま・鍼・灸)																				
			職 業 訓 練 校 等								1		1		2	2							
			自 営																				
			職 場 復 帰								1		(1)		(1)	1	1						
			新 規 就 労																				
			趣味・サークル活動・家事等		1		1						(3)	7	(3)	7	8						
			保 護 介 助								3				3	3							
			小 計	2	(0)	1	(0)	3	155	(2)	11	(5)	10	(7)	21	179							
	単身生活	自立生活	就 労 継 続 支 援 B 型							1				1	1								
			通 所 サ ー ビ ス							1				1	1								
			高 校 ・ 大 学																				
			進 学 先 特別支援学級・特別支援学校																				
			三療養成機関(あんま・鍼・灸)										1		1	1							
			職 業 訓 練 校 等																				
			自 営																				
			職 場 復 帰									(1)		(1)									
			新 規 就 労																				
			趣味・サークル活動・家事等								2				2	2							
			保 護 介 助																				
			小 計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)	4	(1)	1	(1)	5	5							
	グループホーム	ケアホーム	就 労 継 続 支 援 B 型	1	(3)	3	(3)	4		4				4	8								
			通 所 サ ー ビ ス																				
			高 校 ・ 大 学																				
			進 学 先 特別支援学級・特別支援学校																				
			三療養成機関(あんま・鍼・灸)																				
			職 業 訓 練 校 等																				
			自 営																				
			職 場 復 帰																				
			新 規 就 労																				
			趣味・サークル活動・家事等								4		2		6	6							
			保 護 介 助								1				1	1							
			小 計	1	(3)	3	(3)	4	0	(0)	9	(0)	2	(0)	11	15							
計			3	37.5	(3)	4	80.0	(3)	7	53.8	155	98.1	(2)	24	88.9	(6)	13	92.9	(8)	37	90.3	199	93.9
(地域生活)	進学先・職業を再掲	進学先	高 校 ・ 大 学																				
			特別支援学級・特別支援学校						43							43							
			三療養成機関(あんま・鍼・灸)							27.2													
			職 業 訓 練 校 等										1	14.3	1	4.9	1						
			小 計	0	(0)	0	(0)	0	43	(0)	0	(0)	2	(0)	2	45							
			自 営																				
	職業	職 場 復 帰	新 規 就 労																				
			小 計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)		(1)	0	(1)	0	0							
			自 営																				
			職 場 復 帰									(1)		(1)									
			新 規 就 労																				
			小 計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)		(1)	0	(1)	0	0							
施設等	施設	療 養 介 護 支 援																					
		生 活 介 護 支 援	1		1		2		2		(1)		(1)	2	4								
		自 立 訓 練 (機 能 訓 練)																					
		自 立 訓 練 (生 活 訓 練)	1	(1)	(1)	1									1								
		就 労 継 続 支 援 B 型																					
		就 労 継 続 支 援 A 型																					
		特 別 養 護 老 人 ホ ー ム									(1)	1	(1)	1	1								
		老 人 保 健 施 設																					
		知 的 障 害 児 施 設	3			3									3								
		そ の 他 旧 法 施 設					1								1								
		小 計	5	(1)	1	(1)	6	1	(0)	2	(2)	1	(2)	3	10								
		医 療 機 関						2	1.3	(0)	1	3.7	(0)	(0)	1	2.4	3	1.4					
死 亡				0				(0)		(0)	0	(3)	0										
合 計			8	100.0	(4)	5	100.0	(4)	13	100.0	158	100.0	(2)	27	100.0	(8)	14	100.0	(13)	41	100.0	212	100.0

注()書きは、通所者で外書きとする
注療育園については長期・短期利用者の退所児(者)数である。

イ 退所児（者）の在所期間の状況

(単位 人)

施設名			在所期間 退所児 (者) 数		1	1	2	3	4	5	0.5	1	1.5	2	3	5	10	計
					月	1	2	3	4	5	6	1	1.5	2	3	5	10	
			未	2	3	4	5	6	1	1.5	2	3	5	10	年	年	年	以上
			満	月	月	月	月	月	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
七 沢 学 園	児 童	実 数	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	8		
		構 成 比 (%)	12.5	25.0	-	-	-	-	-	12.5	12.5	-	-	37.5	-	100.0		
	成 人	実 数	0	0	0	0	0	0	(2)	(1)	(1)	2	0	0	0	(4)		
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	60.0	40.0	-	-	-	100.0		
	小 計	実 数	(2) 1	2	0	0	0	0	(2) 0	(1) 1	(1) 4	2	0	3	0	(6) 13		
		構 成 比 (%)	7.7	15.4	-	-	-	-	-	7.7	30.8	15.4	-	23.1	-	100.0		
七沢療育園		実 数	155	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	158		
		構 成 比 (%)	98.1	0.6	-	0.6	-	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	肢 体 不 自 由	実 数	0	0	0	0	0	0	(1) 11	(1) 16						(2) 27		
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	-	40.7	59.3	-	-	-	-	-	100.0		
	視 覚 障 害	実 数	0	3	1	0	0	1	(2) 4	(5) 4	(1) 1	0	0	0	0	(8) 14		
		構 成 比 (%)	-	21.4	7.1	-	-	7.1	28.7	28.6	7.1	-	-	-	-	100.0		
	小 計	実 数	0	3	1	0	0	1	(3) 15	(6) 20	(1) 1	0	0	0	0	(10) 41		
		構 成 比 (%)	-	7.3	2.4	-	-	2.4	36.6	48.8	2.4	-	-	-	-	100.0		
計		実 数	156	6	1	1	0	2	(5) 15	(7) 21	(2) 5	2	0	3	0	(14) 212		
		構 成 比 (%)	73.6	2.8	0.5	0.5	0.0	0.9	7.1	9.9	2.4	0.9	0.0	1.4	0.0	100.0		

注 () 書きは、通所者で外書きとする。

注 療育園入所については長期・短期の利用者である。

(6) 施設別苦情受付件数

施設名	委員受付			施設受付			外部受付			計		
	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望
七沢学園(児童・成人)	0	45	1	0	0	0	0	0	0	0	45	1
七沢療育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
七沢自立支援ホーム(肢体・視覚)	0	27	4	0	0	0	0	0	0	0	27	4
計	0	72	5	0	0	0	0	0	0	0	72	5

(7) 利用者満足度調査

七沢学園(児童・成人)	3.4 / 4点
七沢療育園	3.9 / 4点
七沢自立支援ホーム	3.5 / 4点

(8) 各福祉施設における特徴的な利用者支援

ア 七沢学園

区分		実人数	延人数	一日平均人数
強度行動障害児者 受入者数 ※1	児童	1	365	1.0
	成人	6	2,190	6.0
医療重度者 ※2		5	1,825	5.0

※1 強度行動障害児者は、県において判定された者以外に、七沢学園において同様の対応が必要な利用者を含む。

※2 医療重度者とは、難治性てんかん、腎不全、胃瘻等で特に医療管理が必要な者をいう。

イ 七沢療育園

区分	実人数	延人数	一日平均人数
超・準超重症児者 受入数 ※1	27 (短期含む) (内長期12)	4,545 (短期含む) (内長期4,015)	12.5 (短期含む) (内長期12)
短期利用者数	158	928	2.5

※1 人工呼吸器などの呼吸管理、気管内挿管、頻回の吸引などにより医療管理と看護を必要とする重症心身障害児者

ウ 七沢自立支援ホーム

(7) 単身生活に向けた支援

区分	人数
単身者の地域移行者数	5

注 家族介護者がなく、療養中における住居喪失者や、頸損等重度の障害者への自立した単身生活へ支援

(イ) 退所者の障害別内訳

区分	人数
脊髄損傷(うち四肢麻痺)	1
脳外傷者	3
脳血管障害者	18
脳性麻痺	5
二分脊椎	0
その他神経疾患等	0
視覚障害者	14
合計	41

(ウ) 視覚障害者への訪問訓練実績

区分	件数
訪問訓練実績	1

(9) 各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況

ア 理学療法の状況

施 設 \ 区 分			人 数		件 数	
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)
福 祉 局	七沢学園	児 童	0	－	0	－
		成 人	0	－	0	－
	七 沢 療 育 園		33	39.3	506	14.6
	七沢自立支援ホーム		51	60.7	2,962	85.4
計			84	100.0	3,468	100.0

イ 作業療法の状況

区 分 施 設			人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ン ト	自 動 車 そ の 他	A D L 室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
福 祉 局	七沢学園	児 童	0	-	0	-	0	0	0	0
		成 人	0	-	0	-	0	0	0	0
	七 沢 療 育 園		4	7.5	141	2.3	0	0	0	0
	七沢自立支援ホーム		49	92.5	5,916	97.7	13	45	44	6
計			53	100.0	6,057	100.0	13	45	44	6

ウ 言語訓練の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園		七 沢	七沢自立支援ホーム	計
	児 童	成 人	療育園		
件 数	0	0	58	591	649
構成比 (%)	-	-	8.9	91.1	100.0

エ 職能訓練・支援の状況

施設名 区分		七沢自立 支援ホーム	
		件 数	構成比 (%)
評価	職 能 評 価	8	1.6
	受 託 評 価	468	91.7
作業 支援	事 務 系 作 業	0	-
	手 工 芸 系 作 業	0	-
就労 支援	職 業 準 備 訓 練	0	-
	職 業 準 備 学 習	0	-
	個 別 事 務 系 作 業	34	6.7
職場内リハビリテーション		0	-
相談 支援	本 人 面 接	0	-
	家 族 面 接	0	-
	関 係 者 面 接	0	-
計		510	100.0

オ 心理科の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				受 託 評 価		計	
	児 童		成 人				肢体不自由部門		視覚障害部門					
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
心 理 テ ス ト	0	-	11	19.7	6	5.5	42	36.8	1	0.9	69	100.0	129	29.4
心 理 面 接	0	-	4	7.1	0	-	9	7.9	25	22.7	0	-	38	2.9
行 動 観 察	20	1.2	1	1.8	2	1.8	0	-	0	-	0	-	23	7.2
心 理 治 療	1,108	69.3	8	14.3	102	92.7	48	42.1	68	18.2	0	-	1,334	54.0
家 族 面 接 他	473	29.5	32	57.1	0	-	15	13.2	16	14.5	0	-	536	6.5
計	1,601	100.0	56	100.0	110	100.0	114	100.0	110	100.0	69	100.0	2,060	100.0

カ 体育指導の状況

区分 施設名		七 沢 学 園				七沢自立支援ホーム				計	
		児 童		成 人		肢体不自由部門		視覚障害部門			
		件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)
訓 練	室内訓練	0	—	0	—	3,215	77.3	490	77	3,705	77.3
	屋外訓練	0	—	0	—	804	19.4	122	19.2	926	19.3
	水泳訓練	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
評 価		0	—	0	—	136	3.3	24	3.8	160	3.3
計		0	—	0	—	4,155	100.0	636	100.0	4,791	100.0

キ リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

区分		施設名	七沢療育園	七沢自立支援ホーム		計	構成比 (%)
				肢体不自由部門	視覚障害部門		
K R R C			0	0	0	0	0.0
義肢製作及び評価			0	0	0	0	0.0
補装具製作及び試作			0	0	0	0	0.0
歩行・動作計測			0	0	0	0	0.0
車いす設計・製作及び評価			8	1	0	9	16.1
座圧計測			0	2	0	2	3.6
ポジショニングチェア、製作及び評価			37	0	0	37	66.1
意志伝達装置設計・製作及び評価			0	0	0	0	0.0
住宅改修設計および評価			0	0	0	0	0.0
エンシニアリンク・サービス			6	2	0	8	14.3
計			51	5	0	56	100.0
構成比 (%)			91.1	8.9	0	100.0	—

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(10) 給食業務の状況

区分 施設名		入 所 児 者 数								短期 利用等 入所者	指導食	検食・ 保存食	計
		常食	構成比	軟流動食	構成比	特別食	構成比	小計	構成比				
七沢学園	児童	26,486	22.2 %	0	- %	0	- %	26,486	22.2 %	0	0	2,920	29,406
	成人	19,897	16.7 %	0	- %	1,067	0.9 %	20,964	17.6 %	502	1,095	0	22,561
七沢療育園		0	- %	30,869	25.8 %	4,982	4.2 %	35,851	30 %	1,634	1,095	0	38,580
七沢自立支援ホーム		9,622	8.1 %	0	- %	26,448	22.1 %	36,070	30.2 %	505	0	1,095	37,670
計		56,005	46.9 %	30,869	25.9 %	32,497	27.2 %	119,371	100.0 %	2,641	2,190	4,015	128,217

注 1 短期利用等入所者は、受託評価及び短期入所者の給食とする。

2 七沢学園（成人）及び七沢自立支援ホームの通所者の給食は、入所児者数に含む。

2 病院事業

神奈川リハビリテーション病院（略称「神奈川リハ病院」）

神奈川リハビリテーション病院では、脊髄損傷、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症等の骨関節疾患、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患を中心に早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策事業として、神奈川モデルの重点医療機関協力病院、発熱診療等医療機関、中和抗体療法の外来拠点施設、一般市民向けのワクチン集団接種を行い、県の感染症対策に貢献した。感染者数が増加した際には、ICUを最大6床まで拡大し新型コロナウイルス感染症に感染した患者を受け入れた。ワクチン接種は5,600回分を超える接種をした。

令和4年度の入院患者数は、延81,254人（実入院患者数1,217人）で、一日平均の入院患者数は222.6人（一日平均入院率79.5%）であった。入院相談申し込み件数は2,038件で、そのうち承認されたのは1,503人（73.7%）であった。退院患者数は、1,216人で、自宅復帰が1,069人（87.9%）となっている。外来患者数は、延50,605人（一日平均208.3人）であった。院内の感染対策の徹底により、クラスターを起こすことなく安定的に患者を受け入れることができ、地域連携の強化により対外的な活動を徐々に増やすことで昨年度に比較し入院・外来ともに患者の受け入れ数は上昇した。

(1) 病院利用状況 (単位 人)	
区 分	神奈川リハ病院
前年度末在院患者数	217
入院患者数	1,217
退院患者数	1,216
一日平均患者数	222.6
一日平均入院率 (%)	79.5
平均在院日数 (日)	65.8
年度末在院患者数	218
年間延入院患者数 (診療実日数365日)	81,254
一日平均外来患者数	208.3
年間延外来患者数 (診療実日数243日)	50,605

※ 平均在院日数は回復期病棟等の入院患者の平均在院日数も含む。

(2) 入院及び外来患者の状況

ア 診療科別の状況

(単位 人)

診療科	区 分	入 院		外 来	
		年間延患者数	構成比 (%)	年間延患者数	構成比 (%)
内 科		211	0.3	4,743	9.4
神 経 内 科		5,948	7.3	2,307	4.6
小 児 科		5,379	6.6	4,881	9.6
外 科		0	—	612	1.2
整 形 外 科		29,203	35.9	14,118	27.9
脳 神 経 外 科		8,252	10.2	4,971	9.8
皮 膚 科		51	0.1	3,538	7.0
泌 尿 器 科		312	0.4	5,133	10.1
婦 人 科		0	—	0	—
眼 科		0	—	1,293	2.6
耳 鼻 咽 喉 科		0	—	1,283	2.5
リハビリテーション科		31,898	39.2	7,230	14.3
放 射 線 科		0	—	59	0.1
麻 酔 科		0	—	0	—
歯 科 口 腔 外 科		0	—	437	0.9
計		81,254	100.0	50,605	100.0

イ 重度障害者の受入実績 (単位：人)

区分	人数
脊髄損傷者	83
(うち四肢麻痺者)	43
高次脳機能障害者	263
神経難病患者	30
小児神経疾患患者	111

(3) 科別手術の状況

区分 科別	整形外科	泌尿器科	脳外科	耳鼻科	計
件数 (件)	358	24	2	3	387
構成比 (%)	92.5	6.2	0.5	0.8	100.0

(4) 紹介・逆紹介件数実績

区 分	件 数
紹 介	2,453
逆 紹 介 ※	1,652

※ 逆紹介とは、地域のかかりつけ医や介護保険事業所等に診療情報の提供を行う場合や、脳卒中地域連携パスによる地域への情報提供をいう。

(5) セカンドオピニオン実績

件 数
4

(6) 退院患者の状況

ア 退院状況

			転帰(退院経路)									
			自宅		施設		転院		死亡		合計	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
高次脳障害	入院経路	自宅	13	1.1	0	—	0	—	0	—	13	1.1
		施設	0	—	3	0.2	1	0.1	0	—	4	0.3
		転院	181	14.9	19	1.6	20	1.6	0	—	220	18.1
		小計	194	16.0	22	1.8	21	1.7	0	—	237	19.5
脊髄損傷	入院経路	自宅	6	0.5	0	—	0	—	0	—	6	0.5
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
		転院	33	2.7	3	0.2	2	0.2	0	—	38	3.1
		小計	39	3.2	3	0.2	2	0.2	0	—	44	3.6
変形性股関節	入院経路	自宅	164	13.5	1	0.1	1	0.1	0	—	166	13.7
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
		転院	2	0.2	0	—	1	0.1	0	—	3	0.2
		小計	166	13.8	1	0.1	2	0.2	0	—	169	13.9
小児	入院経路	自宅	71	5.8	0	—	3	0.2	0	—	74	6.1
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
		転院	28	2.3	0	—	9	0.7	0	—	37	3.0
		小計	99	8.1	0	—	12	1.0	0	—	111	9.1
その他	入院経路	自宅	267	22.0	2	0.2	8	0.7	0	—	277	22.8
		施設	0	—	9	0.7	0	—	1	0.1	10	0.8
		転院	304	25.0	38	3.1	25	2.1	1	0.1	368	30.3
		小計	571	47.0	49	4.0	33	2.7	2	0.2	655	53.9
全体	入院経路	自宅	521	42.8	3	0.2	12	1.0	0	—	536	44.0
		施設	0	—	12	1.0	1	0.1	1	0.1	14	1.2
		転院	548	45.1	60	4.9	57	4.7	1	0.1	666	54.8
		合計	1,069	87.9	75	6.1	70	5.8	2	0.2	1,216	100.0

(7) 地域別入院患者の状況

(単位 人)

区 分	患者数	構成比 (%)
横 浜 市	123	10.1
川 崎 市	40	3.3
横 須 賀 市	21	1.7
平 塚 市	49	4.0
鎌 倉 市	7	0.6
藤 沢 市	37	3.0
小 田 原 市	35	2.9
茅 ヶ 崎 市	23	1.9
逗 子 市	2	0.2
相 模 原 市	85	7.0
三 浦 市	5	0.4
秦 野 市	50	4.1
厚 木 市	321	26.1
大 和 市	17	1.4
伊 勢 原 市	70	5.8
海 老 名 市	53	4.4
座 間 市	30	2.5
南 足 柄 市	10	0.8
綾 瀬 市	13	1.1
三 浦 郡	2	0.2
高 座 郡	8	0.7
中 郡	14	1.2
足 柄 上 郡	9	0.7
足 柄 下 郡	8	0.7
愛 甲 郡	50	4.1
県 内 計	1,082	88.9
東 京 都	71	5.8
そ の 他	64	5.3
県 外 計	135	11.1
合 計	1,217	100.0

※ 七沢療育園は除く。

(8) 薬剤業務の状況

ア 調剤件数

施 設 名	区 分	処 方 せ ん 枚 数	内 服			外 用		
			件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)
入院		34,919	83,573	658,541	75.4	7,105	45,991	39.9
外来 (施設)		14,016	27,284	1,133,891	24.6	10,687	141,992	60.1
					0.0			0.0
計		48,935	110,857	1,792,432	100.0	17,792	187,983	100.0

施 設 名	区 分	頓 服			計		
		件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)
入院		5,505	27,296	87.0	96,183	731,828	71.3
外来 (施設)		822	8,142	13.0	38,793	1,284,025	28.7
				0.0	0	0	0.0
計		6,327	35,438	100.0	134,976	2,015,853	100.0

注 構成比は、件数に対する比率で、神奈川リハ病院の入院には七沢療育園を含む。

イ 注射薬払出件数・製剤件数

施 設 名	区 分	注 射 薬				製 剤
		枚 数	件 数	延剤数	構成比 (%)	件 数
入 院		9,190	21,860	21,860	74.7	11
外 来		3,804	7,415	7,415	25.3	
計		12,994	29,275	29,275	100.0	

ウ 薬剤管理指導業務

服薬指導延患者数	3,182 人
服薬指導延回数	7,977 回
算 定 件 数	6,087 件

エ 後発医薬品

使 用 割 合	36.5 %
---------	--------

(9) 検査業務の状況

区 分	検査項目	一般検査	血液学的	臨床化学的	内分泌学的	免疫学的	微生物学的	生理機能	病理学的	解剖	その他検体	計
			検 査	検 査	検 査	検 査	検 査	検 査	検 査		検 査	
院内処理件数		77,183	112,819	239,311	2,445	24,249	11,699	4,031	0	0	8,334	480,071
委託件数（外注）		9	49	1,460	319	2,123	9	0	307	0	1	4,277
計		77,192	112,868	240,771	2,764	26,372	11,708	4,031	307	0	8,335	484,348

区分	件 数	構成比 (%)
入 院	226,421	46.7
外 来	257,927	53.3
計	484,348	100.0

(10) 放射線業務の状況

ア 放射線撮影件数

(単位 件)

撮影区分 区 分	透視	撮 影					合 計
		造 影	一 般	断 層	歯 科	小 計	
入 院	66	38	5,955	179	0	6,172	6,238
外 来	85	52	13,402	529	0	13,983	14,068
計	151	90	19,357	708	0	20,155	20,306

イ R I 検査回数

(単位 回)

検査区分 区 分	シンチグラフィー	機 能 検 査	試 料 測 定	計
入 院	98	0	0	98
外 来	157	36	0	193
計	255	36	0	291

ウ コンピュータ X 線断層撮影件数

撮影区分 区 分	単 純		造 影		計	
	件 数	回 数	件 数	回 数	件 数	回 数
入 院	1,140	361,621	38	15,668	1,178	377,289
外 来	2,358	674,261	32	14,895	2,390	689,156
計	3,498	1,035,882	70	30,563	3,568	1,066,445

エ MR 検査件数

撮影区分 区 分	単 純	造 影	計
	件 数	件 数	件 数
入 院	784	13	797
外 来	1,482	13	1,495
計	2,266	26	2,292

(11) 給食業務の状況

ア 病院延給食数

区分	常食	軟流動食	特別食	検食・保存食	計
食数	67,202	14,034	159,025	5,111	245,372

イ 栄養指導業務

栄養指導延患者数	568人
栄養指導延回数	405回
算定件数	464件

(12) 理学療法の状況

区 分 施 設		単位数	人 数		件 数		ブレスクリニック		マッサージ	社会環境 訓練	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)	処方数	対応数			
病 院	入 院	148,931	1,281	61.1	64,491	92.8	254	746	0	0	69
	外 来	10,082	816	38.9	5,024	7.2	556	1,188	0	0	0
計		159,013	2,097	100.0	69,515	100.0	810	1,934	0	0	69

(13) 作業療法の状況

区 分 施 設		単位数	人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ン ト	自 動 車 そ の 他	A D L 室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
病 院	入 院	96,345	955	75.6	47,126	96.4	252	952	688	71
	外 来	3,895	309	24.4	1,757	3.6				0
計		100,240	1,264	100.0	48,883	100.0	252	952	688	71

(14) 言語訓練の状況

	入 院	外来個別訓練	外来集団訓練	計
件数	13,976	1,107	0	15,083
単位数	27,308	2,322	0	29,630
構成比 (%)	92.7	7.3	—	100.0

(15) 心理検査等の状況

区 分	入 院	外 来	計
	件 数	件 数	件 数
心 理 テ ス ト	4,902	1,223	6,125
心 理 面 接	464	16	480
行 動 観 察	854	79	933
心 理 治 療	7,951	1,084	9,035
家 族 面 接 他	1,669	14	1,683
計	15,840	2,416	18,256

(16) 職能訓練の状況

ア 訓練種別施設別訓練件数

施設名 区分		神奈川リハ病院		計
		入 院	外 来	
		件 数	件 数	件 数
評 価	職 能 評 価	2,692	214	2,906
	受 託 評 価	－	－	0
機 能 訓 練	事 務 系 作 業	3,689	630	4,319
	実 務 系 作 業	5,539	447	5,986
就 労 支 援	個 別 事 務 系 訓 練	6,682	3,167	9,849
	個 別 実 務 系 訓 練	1,166	594	1,760
	集 団 訓 練	0	455	455
職場内リハビリテーション		0	0	0
相 談 支 援	本 人 面 接	913	2,474	3,387
	家 族 面 接	9	135	144
	関 係 者 面 接	13	81	94
計		20,703	8,197	28,900

イ 障害別訓練状況

区分	人数
外傷性脳損傷	87
脳血管障害	260
脊髄障害	95
脳疾患	34
知的障害	0
その他	24
合計	500

ウ 障害別就労者数

(単位 人)

区分	新規就労	復職	自営業	合計
外傷性脳損傷	0	7	1	8
脳血管障害	4	42	9	55
脊髄障害	0	8	1	9
脳疾患	0	5	1	6
知的障害	0	0	0	0
その他	0	1	1	2
合計	4	63	13	80

(17) 体育指導の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院	計
		件 数	件 数
訓 練	室内訓練	13,304	13,304
	屋外訓練	3,326	3,326
	水泳訓練	0	0
評 価		1,100	1,100
計		17,730	17,730

(18) リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院		そ の 他	計
		入 院	外 来		
K R R C		0	140	0	140
義 肢 製 作 及 び 評 価		77	354	0	431
補 装 具 製 作 及 び 試 作		0	7	0	7
歩 行 ・ 動 作 計 測		263	41	9	313
車いす設計・製作及び評価		196	105	12	313
座 圧 計 測		72	17	2	91
ホﾞジショング^チェア、製作及び評価		32	24	37	93
意 志 伝 達 装 置 設 計 ・ 製 作 及 び 評 価		9	5	1	15
住 宅 改 修 設 計 お よ び 評 価		0	0	0	0
エンシ^ニアリンク^・サ-ビ^ス		260	36	13	309
計		909	729	74	1,712
構 成 比 (%)		53.1	42.6	4.3	100.0

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(19) ブレース・クリニックの実施状況(含む脳卒中装具外来)

(単位 件)

施設名 区分	入院		外来		七沢療育園		七沢学園		七沢自立支援 ホーム		作製合計	修理合計
	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	件数	件数
義肢	3	0	26	22	0	0	0	0	0	0	29	22
装具	146	6	179	39	0	0	0	0	11	4	336	49
車椅子	35	9	87	45	2	9	0	0	2	4	126	67
電動車いす	5	0	8	2	0	0	0	0	2	0	15	2
座位保持装置	8	1	39	8	2	1	0	0	0	0	49	10
その他	6	0	5	1	0	0	0	0	0	0	11	1
合 計	203	16	344	117	4	10	0	0	15	8	566	151

(20) 総合相談室の状況

ア 総合相談室 相談・対応件数

対象	本人	家族	外部機関	当院スタッフ	その他	合計
件 数	6,290	6,575	9,361	12,286	285	34,797

内容	受診入院相談	在宅ケア	活動参加支援	転院・施設 入所	補装具・福祉 機器・住宅改修	生活支援	その他	合 計
件 数	2,924	10,419	2,302	1,201	4,057	3,610	12,823	37,336

イ 在宅難病者患者等緊急一時入院

相談件数	利用者延人数	利用実人数	利用延べ日数
6件	5人	3人	51日

ウ アドボカシーの状況

a 内容別件数

区 分	苦 情	要 望	感謝	その他	計
件 数	41	32	4	3	80

b 申出者別件数

区 分	本 人	家 族	不 明	その他	計
件 数	49	12	19	0	80

c 受付方法別件数

区 分	来 室	電 話	意見箱	その他	計
件 数	18	5	56	1	80

d 対象別件数(※重複あり)

区 分	診療部	看護部	リハ部	管理課	その他	計
件 数	8	14	11	37	18	88

(21) 相談の状況
ア 神奈川リハ病院

(2022年4月～2023年3月)

施設名		区分	相談件数	方法						対象							
				面接	電話	訪問	文章	カンファ	情報交換・調整	その他	小計	本人	家族	整（外連絡機・関調	当院スタッフ	その他	小計
神奈川リハ病院 七沢療育園	件数	院	23,398	5,991	8,144	105	1,219	1,099	6,519	321	23,398	5,218	5,757	6,118	7,909	146	25,148
	構成比(%)		75.4	25.6	34.8	0.4	5.2	4.7	27.9	1.4	100.0	20.7	22.9	24.3	31.5	0.6	100.0
	件数	園	305	7	73	0	76	18	131	0	305	0	20	89	208	1	318
	構成比(%)		1.0	2.3	23.9	0.0	25.0	5.9	42.9	0.0	100.0	0.0	6.3	28.0	65.4	0.3	100.0
	件数	児童	2,328	226	823	22	138	132	979	8	2,328	116	106	1,129	1,455	19	2,825
	構成比(%)		7.4	9.7	35.4	0.9	5.9	5.7	42.1	0.3	100.0	4.1	3.8	40.0	51.4	0.7	100.0
	件数	成人訓練	1,900	165	693	30	170	112	730	0	1,900	113	56	1,006	1,138	2	2,315
	構成比(%)		6.1	8.7	36.5	1.6	8.9	5.9	38.5	(0.1)	100.0	4.9	2.4	43.5	49.1	0.1	100.0
	件数	成人介護	235	7	70	0	29	30	91	8	235	0	28	80	165	11	284
	構成比(%)		0.8	3.0	29.8	0.0	12.3	12.8	38.7	3.4	100.0	0.0	9.9	28.2	58.0	3.9	100.0
七沢自立支援ホーム 肢体部門	件数	門	1,723	178	646	25	32	72	489	281	1,723	464	406	592	866	72	2,400
七沢自立支援ホーム 視覚部門	件数		5.6	10.3	37.4	1.5	1.9	4.2	28.4	16.3	100.0	19.3	16.9	24.7	36.1	3.0	100.0
計	件数		1,155	122	473	9	25	54	342	130	1,155	379	202	347	545	34	1,507
	構成比(%)		3.7	10.5	40.9	0.8	2.2	4.7	29.6	11.3	100.0	25.1	13.4	23.0	36.3	2.2	100.0
	件数		31,044	6,696	10,922	191	1,689	1,517	9,281	748	31,044	6,290	6,575	9,361	12,286	285	34,797
	構成比(%)		100.0	21.7	35.1	0.6	5.4	4.9	29.9	2.4	100.0	18.1	18.9	26.9	35.3	0.8	100.0

施設名		区分	内容																	小計		
			所受相談・入院入	在宅ケア			活動参加支援			転院・施設入所	住改・機器活用		生活支援			その他						
			ケアプラン	高齢系	障害系 サービス	医療系	参加プラン	日中活動	就労	就学	転院相談	(有料)	福祉機器	福祉機器	補装具	医療・利用	経済生活	家族支援	疾病障害理解	課題支援・	その他	
神奈川リハ病院 七沢療育園	件数		3,152	2,311	1,191	2,880	529	873	432	329	287	581	1,310	1,898	716	531	1,075	1,275	3,325	5,138	29,589	
	構成比(%)		5.9	7.8	4	9.7	1.8	3	1.5	1.1	1	2.0	4.4	6.4	2.4	1.8	3.6	4.3	11.2	17.4	100.0	
	件数		4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	253	3	2	9	11	18	15	318	
	構成比(%)		1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	79.5	0.9	0.6	2.8	3.5	5.7	4.8	
	件数	児童	470	2	46	1	1	0	0	10	34	49	27	34	55	89	223	125	460	273	1,899	
	構成比(%)		24.7	0.0	0.1	2.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	1.8	2.6	1.4	1.8	2.9	4.7	11.7	6.6	24.2	14.4	
	件数	成人訓練	306	0	83	8	0	8	22	0	38	17	4	0	88	164	90	120	408	287	1,643	
	構成比(%)		18.6	0.0	0.0	5.1	0.4	0.0	0.5	1.3	0.0	2.3	1.0	0.2	0.0	5.4	10.0	5.5	7.3	24.9	17.5	
七沢学園	件数	成人介護	18	0	21	4	0	0	0	0	1	11	1	15	20	5	25	19	50	64	254	
	構成比(%)		7.1	0.0	8.3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	4.3	0.4	5.9	7.9	2.0	9.8	7.5	19.7	25.1	100.0	
	件数	七沢自立支援ホーム	150	94	186	137	5	50	24	0	5	112	179	138	220	38	102	20	468	219	2,237	
	構成比(%)		6.7	4.0	8.3	6.1	0.2	2.2	1.1	0.0	0.2	5.0	8.0	6.2	9.9	1.6	4.6	0.9	20.9	9.9	100.0	
	件数	七沢自立支援ホーム	220	3	17	23	0	11	4	4	0	63	144	54	94	17	44	12	342	174	1,396	
視覚部門	件数		15.9	0.2	12.1	1.6	0.0	0.8	0.3	0.3	0.0	4.5	10.3	3.9	6.7	1.2	3.2	0.9	24.4	12.5	100.0	
	構成比(%)		2,924	3,249	1,697	3,053	535	942	482	343	368	833	1,665	2,392	1,196	846	1,568	1,582	5,071	6,170	37,336	
計	件数		7.8	8.6	6.5	4.5	8.2	1.4	2.5	1.3	0.9	1.0	2.2	4.5	6.4	3.2	2.3	4.2	4.2	13.7	16.6	100.0
	構成比(%)																					

(22) 地域連携室の状況

ア 入院相談件数等

(単位:件)

相談総数	相談のみ	入院申込数					
			承認前 辞退等	不承認	承認	辞退	入院決定数
2,038	438	1,600	0	97	1,503	338	1,165

イ 相談からの日数

区 分	相談～ 入院までの日数	相談～ 辞退までの日数	相談～ 決定・連絡までの日数
日 数	20.6日	9.9日	7.5日

ウ 地域連携室で受けた相談全体の種類と件数

区 分	入院相談 ・調整	外来受診相談	転院検索調整	他院予約調整	地域との連絡調整	情報提供	在宅療養相談	その他	合 計
件 数	2038	396	29	6	82	190	29	38	2,808

3 リハビリテーション研究事業

神奈川リハビリテーション病院研究部（略称「研究部」）

当研究部は、障害者等の自立促進を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、障害者スポーツの普及に取り組んでいる。

(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発

研究は、以下1)～3)を視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。

- 1) 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立
- 2) 障害発生の除去、修復メカニズムの解明
- 3) 障害者の自立促進のための研究

研究の主な対象としては、神奈川リハビリテーション病院では、①骨関節疾患（変形性関節症）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児神経疾患を含む）、④高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳卒中など）である。

調査、研究、開発成果のひとつとして、2020年度に監修したTOTO株式会社の水回りのプラン集「バリアフリーブック住まいの水まわり編」を一部修正し、2022年度もTOTO株式会社から発刊している。

また、厚生労働省の助成事業である、障害者等のニーズを反映した実用的な支援機器の開発及び製品化並びに普及を促進することを目的とした「令和4年度障がい者自立支援機器等開発促進事業」において、ダブル技研株式会社が障害者向けの空間移動ロボットを用いた遠隔就労システムの開発をテーマに採択されており、(2022年度から2024年度の3年間で予定)開発協力者として、空中搬送ロボットGOC00Lの開発および製品化を目指している。

(2) 神奈川リハビリテーション病院倫理委員会承認の研究テーマ

当院では、リハビリテーションに関する調査、研究・開発の実施に際し、神奈川リハビリテーション病院の倫理委員会の承認を得ている。研究テーマは以下のとおりである。

研究テーマ

申請番号	所 属	審議内容
krh-2022-001	看護部 集中治療室	THA 患者の安全な車椅子移乗習得に向けた術前指導
krh-2022-002	診療部 整形外科	寛骨臼蓋形成不全の長期経過
krh-2022-003	研究部 研究員	再生医療等製品「ステミラック注」使用成績比較調査の対象拡大について
krh-2022-004	診療部 脳神経外科	被殻出血における高次脳機能障害と脳血流遠隔効果
krh-2022-005	看護部 4階病棟	神奈川リハビリテーション病院における新人看護師の技術チェックリスト評価の推移 ～コロナ禍による関連を考察する～

申請番号	所 属	審議内容
krh-2022-006	リハ部 心理科	脳外傷者の認知—行動障害尺度(TBI-31) ver. 2.0 の作成
krh-2022-007	診療部 泌尿器科	神奈川リハビリテーション病院における視神経脊髄炎患者の尿路管理法に関する検討
krh-2022-008	診療部 小児科	小児脳腫瘍を中心とする脳損傷患者の高次脳機能スクリーニング評価方法の確立に関する研究
krh-2022-009	リハ部 心理科	脳外傷者に実施した神経心理学的検査の統計的検討
krh-2022-010	診療部 泌尿器科	難治性神経因性膀胱・過活動膀胱に対するボトックス膀胱壁内注入療法の効果についての観察研究
krh-2022-011	診療部 リハビリ科	「ゼオマイン®筋注用（インコボルリヌストキシンA）」特定使用成績調査について
krh-2022-012	診療部 リハビリ科	「タリージェ®（神経障害性疼痛治療剤）」特定使用成績調査について
krh-2022-013	診療部 小児科	「サブリル®散分包 500mg」使用成績調査について
krh-2022-014	診療管理部 総合相談室	小児筋電義手利用者の家族交流会の及ぼす効果について
krh-2022-015	診療部 整形外科	肩関節鏡手術における術野消毒方法の検討
krh-2022-016	診療部 整形外科	変形性股関節症患者を対象とした THA 術後の歩容改善に関する歩行解析を用いた評価
krh-2022-017	看護部	診療看護師（NP）に関する看護業務規則
krh-2022-018	研究部 作業療法士	多指駆動筋電義手ミケランジェロハンド®と従来型筋電義手マイオブロックハンド®における三次元動作解析装置を用いた比較評価
krh-2022-019	診療部 泌尿器科	視神経脊髄炎患者の尿路管理法に関する検討

(3) 情報提供・情報発信

区分	主な事業
医学・研究等の撮影業務	静止画（事務作業支援含む） 3 1 5 件
	動画（編集含む） 1 7 6 件
図書業務	文献複写支援件数 5 8 件
	定期購読中の雑誌
	国内誌 紙媒体 5 2 タイトル
	国外誌 紙媒体 1 0 タイトル
	電子媒体 1 4 0 タイトル
	(Book 105・Journal 34・その他 1)
	令和 4 年度製本雑誌
	国内(和雑誌) 1 1 2 冊
	国外(洋雑誌) 3 3 冊

研究・研修事業	神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会 開催 神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要第47号 発行
その他	研修などのポスター作製の支援（プリンター利用の開放）

(4) 研究発表会

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会の実施状況は下記のとおりである。

ア 開催回数（通算） 46 回目
イ 日 時 令和5年2月22日(水) 14:00～19:00
ウ 場 所 神奈川リハビリテーション病院 3階研修室
エ 参 加 者 数 109 名（web 配信閲覧含む）
オ 発 表 内 容

I 一般演題 計 14 題

内訳 看護交流会受賞演題 2 題，応募口演発表 10 題，応募ポスター発表 2 題

II パネルディスカッション（パラアスリート座談会）

テーマ 「パラスポーツとの出会い、そして未来へ
～2024 パリパラリンピック競技大会を目指して～」

<座長> 研究部 平田 学 丸谷 守保

<パネリスト>

樋口 政幸 氏（車いす陸上競技選手）パラリンピアン
青木 颯志 氏（車いすラグビー競技選手）次世代アスリート
佐々木 凜平 氏（車いす陸上競技選手）次世代アスリート
前田 柊 氏（車いすバスケットボール競技選手）次世代アスリート

III シンポジウム

テーマ 「神奈川リハが繋ぐ地域と障害者スポーツ
～障害者スポーツを する 観る 支える～」

<座長> 診療部長 副研究部長 リハ科 横山 修
研究部 村田 知之

<シンポジスト>

「神奈川県がすすめる障害者スポーツの普及」

神奈川県 スポーツ局 大内 岳志 氏

「障害者スポーツとの出会い ～いちご一会 とちぎ大会に帯同して～」

神奈川リハビリ病院 看護部 渡邊 雅英

「競技団体における普及の現状と地域との関わり」

神奈川リハビリ病院 地域連携室／一般社団法人日本車いすラグビー連盟 理事 藤縄 道子

「地域の障害者スポーツ普及活動における当院の取り組み」

神奈川リハビリ病院 リハ部 リハビリテーション工学科／非営利活動法人日本障害者スキー連盟 理事 辻村 和見

「障害者スポーツを『する』『観る』『支える』神奈川リハビリテーション病院の役割」

神奈川リハビリ病院 体育科 石井 宏明

(5) かながわりハビリロボットクリニック Kanagawa Rehabili Robot Clinic (K R R C)
の取組

筋電義手の処方、訓練など筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援、さがみロボット産業特区における実証実験の受入れ調整を行った。

筋電義手の処方・訓練については、「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。患者の日常生活や職場、学校や幼稚園、保育園での課題やニーズに合わせ必要な操作ができるよう訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。

特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を付けることから始めるが、先天性の小児患児4人については筋電義手の訓練まで進むことができた。また、後天性の小児患者1名に対しては、患児のニーズが高かったダンス用の義手の製作に取り組み、皆と同じ振り付けができるよう軽い素材の装飾用義手を製作した。これには、軽量化を図るため、市販品の「手」ではなく3Dデータで設計し3Dプリンタを利用し製作した。また、3Dスキャナによる断端部の採型手法を研究的に実施し、乳幼児への負担を軽減する取組を行った。

本年度より、当事者とその家族を集めた家族会を開催した。「MIRAI ラボ」と称し、先輩当事者の話や同じ手を持つ子どもたち同士が一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。

公費の認定は、障害者総合支援法による認定1名、労災保険による認定1名であった。なお、労災患者には多指駆動のミケランジェロが認定された。

筋電義手バンクの仕組みが設けられ、直接寄付の他、ふるさと納税による寄付により必要な筋電義手の費用をまかなう仕組みが導入された。

ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に HAL®、ExoAtlet を活用した歩行訓練を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で外来リハが制限されたため、実施件数は減少したままである。

今後、再生医療がさらに本格的に行われると、ロボットを活用したリハビリテーションが有効であると考えており、プロトコルの構築に向け引き続き検討をしていく。



(家族会の様子)

ア 相談者の状況

区 分	今年度累計	
	件数	構成比
個 人	6	35.2%
本 人	3	17.6%
家 族	3	17.6%
福祉関係施設	0	-
医療機関	0	-
大学・研究機関	2	11.8%
企 業	9	53.0%
国		-
地方自治体		-
その他		-
合 計	17	100.0%

イ 相談内容

項 目	今年度累計	
	件数	構成比
筋電義手	6	35.3%
ロボットリハビリの実施について	0	-
実証実験の実施について	9	52.9%
さがみロボット産業 特区関係	4	23.5%
さがみロボット産業 特区以外の実証実験	5	29.4%
その他	2	11.8%
合 計	17	100.0%

(6) さがみロボット産業特区等への協力

県による県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を実現するための「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場としてリハセンターが位置づけられている。事業団として、リハビリに役立つロボットの実用化に向けて、実証実験の協力を行い、リハビリテーションにおける効果検証や、製品に対する評価・改善点の提言を行った。また、県のロボット産業に関する協議会等に委員協力を行った。

表 1 主な開発支援・実証実験等

製品名	企業名・所管課	ロボットの概要	協力内容
ロボットスーツ HAL®	サイバーダイン (株) (介護ロボット普及推進センター事業)	人が身体を動かそうとした時の皮膚表面に現れる微弱な生体電位信号により各部のモーターが駆動し、身体機能を拡張、増幅、支援する。不全麻痺の脊髄障害、脳卒中患者の歩行支援を行う。	患者に装着しリハビリテーション効果の評価をはじめ、病院職員による改善点の提言 (神奈川リハ病院)
空間認知に障がいがある方への誘導システム	LOOVIC (産業振興課)	腕時計型の装置により行きたい場所へ手を引かれるように案内できる支援ロボット	高次脳機能障害の方が利用した場合を想定しての評価、ニーズ、改善点の提言 (神奈川リハ病院)
筋電義手の製品化	株式会社 ALTs (県立産業技術総合研究所)	筋電義手の軽量化、安価、高性能、手軽さ、すべてを充実させた次世代の義手を届ける	患者に普段接している作業療法士や義肢装具士による製品の評価、患者ニーズや改善点の提言 (神奈川リハ病院)
Messay	日新電機工作株式会社	神経難病者に対するコミュニケーションアプリ	研究員、作業療法士、リハエンジニア等による製品評価、改善点の提言 (神奈川リハ病院)

(7) 障害者スポーツの支援

ア かながわ障害者スポーツ支援部門 (Kanagawa Para-Sports Support Project (K P S P))

神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」）の拠点として、当院の患者に向けた障害者スポーツ等に関する医療的支援や情報提供、各競技団体と連携し参加と継続につながる総合的な支援を行なっている。障害者スポーツ等に携わる職員の経験や情報を集約し、障害者スポーツ等を担う団体とともに普及・啓発を目指すとともに、それら情報を発信していくことを目指している。こうした病院職員の職種を超えた横断的なチームにより、下記のような体験会等の運営も行っている。

イ 障害者スポーツ体験会の実施

障害のある方にとってスポーツをすることは、体力の維持向上や機能回復を図るだけではなく、他者との交流を図ることができる社会参加の一つとして有意義なものである。当院では開設以来、体育訓練を中心に行ってきた。障害者にとってスポーツを入院中や通院中に経験できることは、スポーツをするきっかけとなり退院後の社会参加につながっている。

本年度は、こうした障害者スポーツをさらに普及するために、まずは職員にも障害者スポーツの魅力を知ってもらえるよう職員向け体験会と、障害の有無に限らず一般の方が広く経験できるよう地域向けの体験会をそれぞれ4回実施した。

職員向けの体験会については、職員の障害者スポーツへの関心が高まり職員から患者さんへの情報提供に結び付くことが期待される、障害者スポーツのイベント時にはサポートスタッフとして活躍する、ということに繋がった。

一般の地域向け体験会では、車いすバスケットボール、車いすテニス、車椅子バドミントン、ハンドサイクル、フライングディスク、卓球、ゴールボール、陸上競技のレーサー、ユニバーサルスポーツとして卓球バレーやボッチャ、モルックやチェアスキーシミュレーターといった種目の体験を行った。障害の有無を問わず10歳未満から70歳代まで72名の参加があった。「以前から興味のあった種目を体験できた」、「普段では行う機会のないスポーツを体験できた」などの感想が寄せられた。

ウ 厚木市スポーツイベントへの参加

2023年3月18日（土）に開催された「厚木市スポーツなじみデイ」と同時開催の形をとり、荻野運動公園体育館にて障害者スポーツ体験会を実施した。車椅子バスケットボール、車椅子バドミントン、陸上競技のレーサー、チェアスキーシミュレーターの体験会を行った。小学生やそのご家族といった60名の参加者があった。一般の方にとっては、競技用車椅子の乗車体験にもなり、障害理解の促進にもつながる機会となった。

県では、かながわパラスポーツを「する」、「観る」、「支える」ことと謳っているが、当院が行った体験会を通じ、スポーツを行うことへのきっかけづくりや関心の高まり、支援者の理解の促進につながったと考えている。障害のある方の社会参加、体力の維持向上につながるこうした事業を継続して実施していきたい。



車椅子バスケットボールの体験



ゴールボール（視覚障害者の競技体験）



陸上競技 レーサーの体験



チェアスキーシミュレーター 乗車体験

(8) 専門職向けセミナーの開催

ア 股関節のリハビリテーション ～運動療法の実際～

11月6日（日）に医療専門職を対象に開催し、40名を超える参加者があった。セミナーでは当院整形外科医の医師3名により股関節治療の実際や手術手技、手術支援機器（ロボット）を用いた手術の状況などを紹介した。また、理学療法士による講義と実技、症例報告等を行うことで、参加者それぞれが臨床場面で活用できる内容を提供した。

イ 脊損リハビリテーションセミナー

～脊髄損傷者の可能性を広げる総合リハビリテーション～

11月26日（土）～27日（日）の2日間で開催し、医師や看護師、リハビリテーションに携わる職種の方など40名を超える参加者があった。セミナー初日ではリハビリテーション科医師2名による脊髄損傷のリハビリテーションや合併症等の講義、その後、7つの専門職種による総合リハビリテーションのアプローチを紹介した。2日目は、ハンズオンとしてスポーツ活動や福祉用具、補装具の活用を体験する時間を設け、総合リハビリテーションに求められる視点や気づきを共有した。

(9) メディアを活用した情報発信

日本テレビ系列「24 時間テレビ 愛は地球を救う」に当院の「未来筋電義手センター」の患者さんが出演した。企画構成、取材にあたっては、病院としてテレビ局制作側と患者さんの間に入り、患者本人、家族の意向に反しないよう常に調整と配慮を行うとともに、撮影当日については全面的に協力した。番組本番では、義手を付け、出演者と共にチアダンスチームに参加しダンスを披露した。また、病院内で行っている筋電義手の訓練の様子も放送された。未来筋電義手センターではやりたいことをあきらめることなくチャレンジできるよう、子供たちの未来、ご家族の未来を義手でサポートしていくというスタンスが発信できた。

4 地域リハビリテーション支援センター事業

地域リハビリテーション支援センターは、地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための人材育成・情報提供・関係機関との連携推進に関する業務を地域支援室と高次脳機能障害支援室で行っている。

地域支援室では、指定管理事業と県委託事業である「神奈川県リハビリテーション支援センター」事業を行っている。県委託事業はリハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供、研修等を行っている。指定管理事業はリハビリテーション専門研修等を行っている。

高次脳機能障害支援室では、県委託事業である「高次脳機能障害支援普及事業」の神奈川県内の支援拠点機関として、支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）

医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和4年度は17コースの研修を全て対面形式で実施した。また、新型コロナウイルス感染防止のため、受講人数の制限、受講前の体調管理チェック表の提出・ワクチン接種確認、研修に使用した機器、備品の消毒等を行った。研修終了後10日以内の感染報告はなかった。

延受講者数は、外部受講者339名、事業団職員13名で総受講者延数は352名であった。

研修アンケートでの4段階評価の平均は3.9であった。

NO	研 修 名	受講 方法	開催日	定員	外部 受講者数	内部 受講者数	総受講 者延数	評価 /4
1	セラピストのためのハンドリング入門	対面	4月23日(土)	20名	14名	0名	14名	4.0
2	脳血管障がいのリハビリテーションの実際	対面	5月14日(土)	20名	18名	0名	18名	3.9
3	摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際	対面	5月21日(土)	20名	16名	0名	16名	4.0
4	からだにやさしい介助入門	対面	6月7日(火)	20名	19名	0名	19名	4.0
5	からだにやさしい介助入門	対面	6月21日(火)	20名	24名	0名	24名	4.0
6	コミュニケーション支援の実際	対面	7月9日(土)	20名	21名	0名	21名	3.8
7	排泄ケアの知識と実践	対面	7月20日(水)	30名	20名	1名	21名	4.0
8	PT・OTのための臨床動作分析	対面	9月3日(土)	20名	18名	1名	19名	3.9
9	視覚障がいのある方への支援	対面	9月7日(水)	20名	15名	3名	18名	3.8
10	脳血管がいの評価と治療	対面	11月23日(土)	20名	23名	3名	26名	3.9
11	褥瘡予防セミナー	対面	10月19日(水)	30名	25名	0名	25名	3.8
12	(新) 脳卒中の方の就労支援	対面	10月29日(土)	30名	12名	4名	16名	3.8
13	ポジショニング入門	対面	11月1日(火)	30名	33名	0名	33名	4.0
14	知的障害のある方への生活支援	対面	11月15日(火)	30名	31名	0名	31名	3.8
15	在宅における呼吸器・循環器管理について	対面	12月3日(土)	30名	19名	0名	19名	3.8
16	車いすシーティング	対面	2月4日(土)	20名	21名	0名	21名	4.0
17	(新) 地域生活を支える支援とは	対面	2月7日(火)	30名	10名	1名	11名	3.9
合 計			開催回数 17回	410名	339名	13名	352名	3.9

(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）

ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」 政令市のリハセンターとの連絡会

横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、川崎市中部リハビリテーションセンター、川崎市南部リハビリテーションセンター、相模原市更生相談所と情報交換等を目的に連絡会を開催している。開催日とテーマは以下の通りであった。

日時：令和5年3月10日 開催方法：オンライン

テーマ：「障がい者の就労支援に関する情報交換」

イ 地域医療介護連携会議等への参加

(ア) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」（2回）、

県小児等在宅医療推進会議は神奈川リハビリテーションセンターより小児科医、地域リハビリテーション支援センター所長が出席した。

(イ) 「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）

・神奈川県障害者自立支援協議会	2回
・神奈川県障害保健福祉圏域事業調整会議	3回
・湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・県西障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・県央障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・横須賀・三浦障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回

ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

例年、県内の保健福祉事務所に対し難病支援に関する会議や研修会等に協力しているが、新型コロナウイルス感染防止のため行われなかった。

(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）

ア リハビリテーションの相談対応・情報提供

(ア) リハビリテーション専門相談

リハビリテーション専門相談は、リハビリテーションを必要とする高齢者・障害者が住みなれた地域で自立した生活が送れるよう専門スタッフが市町村及び地域のリハビリテーション関係機関と協働して総合相談・情報提供・技術支援などを実施するものである。目的は、課題の解決のみならず、相談事例を通して医療・介護・福祉の連携を図ることで、地域におけるリハビリテーションに関する相談や調整を行う人材育成にも関与するものである。相談支援の活動では制度間の枠を超えた多職種・多機関による包括的アプローチを行うことで、地域にあるリハビリテーション資源を積極的に活用し、自立支援の観点の基本にしたケアプランや個別支援計画の作成などに寄与する。

延べ相談件数は、188件、内新規相談件数は107件であった。内訪問件数は延べ26件であった。今年度の傾向として視覚障害に関する相談件数の増加が認められた。神奈川県眼科医協会の協力を得て視覚障害、ロービジョンの相談を受けている。県内の眼科にリーフレットが配布され認知されてきているものと思われる。

リハビリテーション相談対応件数	件数
電話	136
訪問	26
来所 面接	2
オンライン	1
メール・その他	23
合 計	188

障害別相談件数	件数
視覚障害	42
知的障害	27
脳性麻痺	23
神経・筋疾患	23
脊髄障害	21
脳血管障害	21
後天性脳損傷（除くCVA）	14
骨関節疾患	4
その他	12
不明	1
合計	188

保健福祉圏域別相談件数	件数
県央	55
湘南西部	37
湘南東部	27
県西	16
横須賀・三浦	13
相模原市	13
横浜市	22
川崎市	1
県外	4
合計	188

相談依頼元別件数	件数
本人家族	59
障害者施設	46
障害者相談支援事業所	21
訪問看護事業所	15
居宅介護事業所	11
高齢者施設	10
教育機関	8
医療機関	6
市町村	5
地域包括	2
保健福祉事務所	1
訪問介護事業所	1
障害者更生相談所	0
その他	3
合計	188

(イ) 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集、広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」を掲載し、広く情報の提供に努めている。令和4年度のホームページへのアクセス総数は45,377件であった。

広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」は県内関係機関向けに年6回発行している。

(ウ) リハビリテーション従事者等を対象とした研修

地域リハビリテーション連携構築推進研修

鎌倉市及び秦野市で各2回計4回の研修を行った。

鎌倉市 「今一度知ろう 地域ケア会議におけるリハビリテーション職の役割と可能性」

開催日：令和4年11月30日(水)・12月14日(水) 開催形式：対面・オンライン

参加人数：延べ45名 評価 3.7/4.0

秦野市 「障害福祉グループホームにおけるリハビリテーションの可能性について」

～グループホームのネットワークと地域での連携に向けて～

一部 ～グループをとりまく状況と多職種連携について～

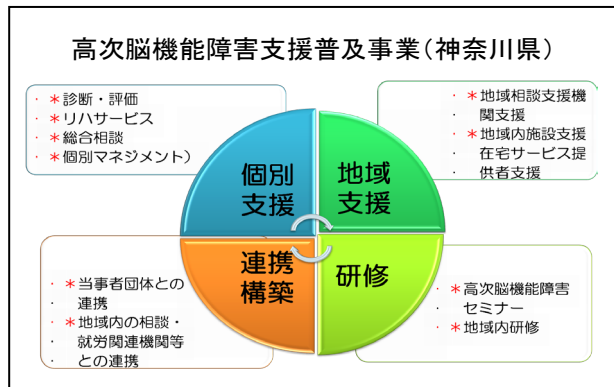
二部 ～リハビリテーション連携と利用計画への実際～

開催日：令和5年1月23日(月)・2月10日(金) 開催形式：対面・オンライン

参加人数：延べ75名 評価 3.7/4.0

(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）

障害者総合支援法に基づく支援拠点機関として高次脳機能障害支援普及事業を行っている。拠点機関の支援内容の概要として、地域リハビリテーション支援センターでは、高次脳機能障害相談支援コーディネーターを3名配置し、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱とした事業を実施している。



ア 相談支援

(ア) 個別支援の状況

新規相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
本人・家族	68	40.0%
医療機関（外来含）	60	35.3%
地域相談窓口	23	13.5%
障害者施設	6	3.5%
市町村	2	1.2%
介護保険関係機関	8	4.7%
家族会	1	0.6%
その他	2	1.2%
合計	170	100.0%

相談内容別の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
生活課題への対応	695	27.6%
経済・制度利用	568	22.6%
家族支援	265	10.5%
福祉サービス・社会資源	264	10.5%
就労・教育等	263	10.5%
医療	233	9.3%
リハ訓練（通プロ含）	210	8.4%
医療機関紹介	9	0.4%
補装具	3	0.1%
福祉機器・用具	0	0.0%
看護・介護方法	0	0.0%
その他	3	0.1%
合計	2513	100.0%

新規障害別の相談件数

区分	件数	構成比
脳卒中	83	48.8%
成人外傷性脳損傷	53	31.2%
小児脳損傷	8	4.7%
神経難病	0	0.0%
脊損・頸損	0	0.0%
骨・関節疾患	0	0.0%
不明	3	1.8%
その他（低酸素脳症等）	23	13.5%
合計	170	100.0%

相談に対する保健福祉圏域別の件数

区分	件数	構成比
県央	83	19.6%
湘南西部	57	13.5%
湘南東部	54	12.7%
相模原市	51	12.0%
横浜市	48	11.3%
横須賀・三浦	40	9.4%
県西	27	6.4%
川崎市	20	4.7%
県外	44	10.4%
不明	1	0.0%
合計	425	100.0%

(イ) 巡回相談事業

- ① 相模原(プラスかわせみ)：第1土曜日 10時から12時(当事者会・家族会)
- ② 藤沢(チャレンジⅡ)：第3水曜日 13時から14時30分家族会
- ③ 小田原(おだわら障がい者総合相談センター)：第1金曜日 14時から15時30分
- ④ 大和(大和市障害者自立支援センター)：第3水曜日 14時から16時
- ⑤ ナナの会 就労を考える会(スペースナナ)：年2回土曜日

イ 普及・啓発

(ア) 研修会の開催

研 修 名	対象者	開催日	定員	受講方法	受講者数	開催場所	評価/4
高次脳機能障害セミナー (理解編)	限定なし	8月27日(土)	100名	対面	66名	県総合医療会館	4.0

(イ) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

高次脳機能障害者に関する地域支援ネットワークの充実を図るため、神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会を開催した。

・日時：令和5年2月16日(木)15:00～17:00 ・開催方法：オンライン

(委員会の構成員)

区 分	所 属
学識経験者	関東学院大学 社会学部現代社会学科
県の機関	健康医療局保健医療部県立病院課、福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課 精神保健福祉センター、総合療育相談センター
国の機関	障害者職業センター
横浜市	横浜市総合リハビリテーションセンター
川崎市	高次脳機能障害地域活動支援センター
相模原市	高齢・障害者福祉課 障害福祉班
当事者団体	NPO 法人脳外傷友の会ナナ
NPO 法人脳外傷友の会ナナ 職域団体	医療ソーシャルワーカー協会、かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
サービス提供事業所	愛名やまゆり園
リハセンター	地域リハビリテーション支援センター所長ほか2名
計	17名

ウ 研修関係事業

(ア) 研修会の開催

研 修 名	対象	開催日	定員	受講方法	受講者数	評価/4
高次脳機能障害セミナー (小児編)	医療・福祉・職業・行政等の分野で障害福祉にかかわっている者	7月16日(土)	30名	対面	20名	4.0
高次脳機能障害セミナー (実務編)	医療・福祉・職業・行政等の分野で障害福祉にかかわっている者	12月10日(土)	40名	対面	33名	3.9
高次脳機能障害セミナー (就労支援編)	MSW, PSW, 相談支援従事者、ハローワーク等の職員	1月21日(土)	40名	オンライン	33名	3.9

(イ) 県内研修会への講師派遣

- ① 令和4年5月9日 身体障害者・知的障害者担当新任職員研修
- ② 令和4年5月3日 精神保健福祉基礎研修
- ③ 令和4年7月9日 茅ヶ崎市地域活動支援センター楽庵勉強会

(ウ) 事例検討会

- ① 令和4年7月20日 藤沢市事例検討会(オンライン)
参加者 18名(支援員 13名、相談支援専門員 3名、管理者 2名)
- ② 令和4年7月22日 ゆんるり事例検討会(オンライン)
参加者 7名(福祉職 7名)
- ③ 令和4年10月28日 相模原市事例検討会(ぶらすかわせみ)
参加者 10名(支援員 3名、ケアマネジャー 3名、相談支援専門員 3名、施設長 1名)
- ④ 令和4年11月25日 大和市事例検討会(オンライン) :
参加者 32名(生活支援員 15名、相談員 5名、サービス管理責任者 4名、
ケアマネジャー 3名、保健師・社会福祉士・ケアワーカー・センター長・就労支援員各 1名)
- ⑤ 令和5年1月25日 藤沢市事例検討会(オンライン)
参加者 15名(支援員 5名、相談員 5名、ケアマネジャー 4名、MSW 1名)
- ⑥ 令和5年2月24日 相模原市事例検討会 :
参加者 8名(支援員 4名、相談支援専門員 4名)

(エ) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

- ① 第1回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会
・日時：令和4年7月14日(木)15時から17時
・開催方法：オンライン
- ② 第2回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会
・日時：令和5年1月12日(木)15時から17時
・開催方法：オンライン

エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

- ① 令和4年6月29日 開催方法：オンライン
- ② 令和5年2月17日 開催方法：オンライン

オ その他の関連事業

(ア) 連携構築

- ① 政令指定都市との連携

政令指定都市在住者への支援が多いことなど政令指定都市内の中心的機関との連携支援の必要性が高い状況にある。そのため、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセンター、川崎市中部リハビリテーションセンター、川崎市南部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、高次脳機能障害地域活動センター及び相模原市高齢・障害者福祉課、かわせみ会と定期的な情報交換会を実施した。

開催日	開催場所・方法	参加機関
6月10日(金)	オンライン	・横浜市総合リハセンター(コーディネーター) ・川崎市北部リハセンター(SW) ・川崎市中部リハセンター(SW、心理、行政)
12月15日(木)	オンライン	・川崎市南部リハセンター(SW、行政) ・れいんぼう川崎(SW) ・高次脳機能障害地域活動支援センター(SW) ・相模原市高齢・障害者福祉課障害福祉班 ・かわせみ会(相談員) ・神奈川県総合リハセンター(コーディネーター) ・神奈川県障害福祉課

② 自立支援協議会との連携

高次脳機能障害者支援の広域的・専門的相談支援機関として圏域事業調整会議および障害保健福祉圏域自立支援協議会へ参加している。

○障害保健福祉圏域事業調整会議

日 時	開催場所・方法	内 容
7月15日(金)	オンライン	各圏域ナビからの事業実施状況報告 県障害福祉課および専門機関より情報提供
10月21日(金)	オンライン	
1月18日(水)	プロミティーあつぎ	

○障害福祉圏域・地域自立支援協議会

日 時	圏 域(開催方法)	内 容
6月17日(金)	湘南東(対面)	圏域ネットワーク形成事業の実施報告 各市町村自立支援協議会の実施状況 地域課題の報告及び意見交換等
7月22日(金)	県西(オンライン)	
7月27日(水)	湘南西(オンライン)	
8月8日(月)	県西(ハイブリッド)	
9月2日(金)	県央(オンライン)	
10月28日(金)	横三(対面)	
2月3日(金)	県央(書面)	
2月10日(金)	湘南東(対面)	
2月22日(水)	湘南西(対面)	
3月22日(水)	県西(オンライン)	

③ 当事者団体との連携

NPO 法人脳外傷友の会「ナナ」の協力を得て神奈川リハビリテーション病院内の協働事業室にて入院・外来利用者などを対象にピアサポート支援や本人の活動支援を行い、必要に応じて地域リハビリテーション支援センターと連携した研修や個別支援を行っている。

5 厚木看護専門学校事業

昭和 43 年 4 月に厚木准看護婦学校として開校以来、令和 5 年 3 月で 55 年が経過した。「共に生きる社会」の発展に貢献する神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、神奈川県県央地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を使命とし、開校以来 4,409 人の卒業生を送り出している。この使命を果たすため、以下の理念に基づいた教育を目指している。

- 学生一人一人の持つ可能性を引き出し、専門職業人として信頼される高い倫理観、自律性を育てる
- 人間と健康に対する理解を深め、自ら考え、看護を探究できる看護の実践者を育成する
- 時代の先見性をもって柔軟に多職種と協働できる専門職業人を育成する

令和 4 年度は、看護学科（第 41 回生）85 人が入学した。同年度 3 月には、医療専門課程である看護学科（第 39 回生）87 人が卒業し、「専門士（医療専門課程）」の称号を付与した。また、同年度 2 月に実施された看護師国家試験に 85 人が合格した。

なお、令和 4 年度卒業生の就職及び進学状況は、県内医療機関への就職 85 人である。

令和 5 年度入学生に応募者状況は定員 80 人のところ 154 人、受験者状況は 149 人であった。応募倍率は 1.9 倍、受験倍率は 1.9 倍となっている。令和 5 年 4 月には、看護学科（第 42 回生）79 人が入学した。

(1) 在籍者の状況（令和 5 年 3 月 31 日現在）

（単位 人）

区 分		年 度 当 初 在 籍 者 数	年 度 内 の 移 動		年 度 末 在 籍 者 数
学科	学年（定員）		中途入学者数	中途退学者数	
看護学科	1 年（80）	< 3 > 88	0	2	84（2）
	2 年（80）	< 2 > 84	0	1	82（1）
	3 年（80）	< 5 > 90	0	0	90（0）
	計（240）	< 10 > 262	0	3	256（3）

注 年度当初在籍者数の< >書きは、留年者数で内書きとする。

注 年度末在籍者数の（ ）書きは、年度末退学者数で内書きとする。

(2) 卒業生の就職等の状況 (単位 人)

区分	卒業 者数	就職者数			進学 者数	その他
		総数	県内	うち事業団		
			県外	-		
看護学科	87	85	85	23	0	2
			0	-		

(3) 応募者の状況

看護学科（3年課程・全日制）[募集定員80名] (単位 人)

区分	応募 者数	受験 者数	合格 者数	入学 者数	応募 倍率	受験 倍率	合格率 (%)	入学率 (%)	卒業 者数	国家試験 合格者数	国家試験 合格率 (%)
42回生 (R5年度入学)	154	149	86	79	1.9	1.9	57.7%	91.9%	-	-	-
41回生 (R4年度入学)	236	232	95	85	3.0	2.9	40.9%	89.5%	-	-	-
40回生 (R3年度入学)	208	194	87	86	2.6	2.4	44.8%	98.9%	-	-	-
39回生 (R2年度入学)	204	190	93	86	2.6	2.4	48.9%	92.5%	87	85	97.7

※応募倍率 = 応募者数 ÷ 募集定員

※受験倍率 = 受験者数 ÷ 募集定員

6 地域の保健・医療・福祉への支援事業

本事業は、センターの持つリハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、センターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上を目指している。令和4年度は、地域への派遣延人数が3人で、研修事業等への派遣延人数が37人、実習等の受入延人数は3,565人であった。

区 分	事業分類	事業内容	実 績
I 地域保健・医療・福祉事業への支援	1 医学的判定・医学的指導への支援	医学的判定支援	なし
	2 医療・訓練事業への支援	医療・訓練協力	一般社団法人日本作業療法士協会 他2件 延3人
II 研修事業等	1 研修事業への協力（外部機関の専門職員研修会に講師派遣）	(1) 医療関係職員研修	公益社団法人神奈川県看護協会 他5件 延17人
		(2) 福祉関係職員研修	国立障害者リハビリテーションセンター 他1件 延2人
		(3) 教育関係職員研修	伊勢原支援学校 他1件 延2人
		(4) 各種相談員・ホームヘルパー・ボランティア等研修	NPO法人 脳外傷友の会ナナ 延1人
		(5) 障害者・介護者（家族）研修	日本高次脳機能障害友の会 他2件 延3人
		(6) 一般住民	相模原市 他1件 延2人
		(7) その他	関東地区障害者支援施設部会研修会 延1人

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅱ 研修事業等	2 専門職員養成事業等への支援	(1) 学生臨床実習受入	(福祉部門) 町田保育専門学校 他 24 校 延 395 人 (神奈川リハ病院) 積善会看護専門学校 他 23 校 延 3, 161 人
		(2) 各種人材養成研修派遣	神奈川県 他 1 件 延 6 人
		(3) 医療関係者実習受け入れ	公益社団法人日本看護協会 他 1 件 延 3 人
Ⅲ 障害者福祉行事等への支援	1 障害者スポーツ大会等への支援	身障者スポーツ大会への支援	神奈川県身体障害者連合会 他 2 件 延 7 人
Ⅳ 各種団体運営等への支援	1 各種団体運営等への支援	(1) 国、県、市町村等の公的機関への支援	厚木市 他 4 件 延 9 人
		(2) 民間団体等への支援	東京盲ろう者友の会 他 4 件 延 7 人
Ⅴ 調査研究事業等への支援	1 調査研究事業等への支援	調査研究事業等への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 延 1 人
	2 各種委員会への支援	各種委員会への支援	厚木市 他 10 件 延 14 人

7 職員確保対策事業

令和4年度の職員確保対策については、所属、職種ごとに補充対象を検討し、求人活動を行った。
採用者60人の職種別内訳では、看護職員が最も多く27人（45.0％）となっている。

医師の確保については、大学医局との連携強化を模索するとともに、採用が困難な診療科医師を民間の紹介業者を活用し確保を行った。また、看護職員の確保については、年間を通して適正な医療サービスの提供ができるよう、退職者の補充に加え出産休暇、育児休業等で勤務に就くことができない職員数を加味し、採用を行った。
今後も採用が困難な医師等の安定的な確保に力を注いでいく考えである。

(1) 職員充足状況

(単位 人)

区 分 \ 職種別			総 数	職 種 別 内 訳					
				医 師	看護職員	理学療法士	作業療法士	指導員	その他の職員
定 員			658	44	221	51	38	148	156
現 員	正	令和 3 年度末現在人員	613	37	242	54	37	134	109
		令和 4 年 3 月 31 日退職	(55)	(9)	(24)	(4)	(4)	(10)	(4)
		令和 4 年度採用	60	12	27	5	3	6	7
		令和 4 年度退職	25	6	12	1	3	1	2
	規	職種変更	0	0	1	0	0	0	▲ 1
		令和 4 年度末現在人員	593	34	234	54	33	129	109
		令和 5 年 3 月 31 日退職	(51)	(6)	(19)	(4)	(2)	(16)	(4)
	臨時	令和 4 年度末現在人員	77	1	2	4	0	17	53
	計		670	35	236	58	33	146	162
過 不 足 数			12	▲ 9	15	7	▲ 5	▲ 2	6
充 足 率 (%)			101.8	79.5	106.8	113.7	86.8	98.6	103.8

注 令和5年3月31日退職欄の（ ）書きは、令和4年度末現在人員の内書きとする。

(2) 学資金等の貸付事業の状況

区 分 \ 職 種	学資金貸付 (厚木看護専門学校)		学資金貸付 (外部養成校)		計	
	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額
看 護 師	人	千円	人	千円	人	千円
	51	42,840	5	3,000	56	45,840

注 看護師に対する学資金等は厚木看護専門学校生は月額70千円、外部養成校学生は月額50千円の貸し付けである。
注 厚木看護専門学校生の貸し付け金額は前年度遡り貸し付け分を含む。

(3) こども園保育状況(単位 人)

区 分	3 歳未満児	3 歳以上児	合 計
R3 年 度 末 在 園 児 数	5 人	2 人	7 人
R4 年 3 月 31 日 卒 園 ・ 退 園 児 数	▲ 3 人	▲ 1 人	▲ 4 人
R4 年 4 月 1 日 ク ラ ス 編 成 異 動 児 数	2 人	1 人	3 人
R4 年 度 入 園 児 数	7 人	1 人	8 人
R4 年 度 退 園 児 数	0 人	0 人	0 人
年 度 末 在 園 児 数	9 人	2 人	11 人

8 職員福利厚生事業

令和4年度の状況は、次のとおりである。

(1) 職員宿舍入居状況

(令和5年3月31日現在)

区 分	宿舍名	内 容	戸または室数	入居数	入居率 (%)
単身者用宿舍	レオパレス等	ワンルーム	26	26	100.0
世帯者用宿舍	七沢アパート	3DK	48	19	39.6
合 計			74	45	60.8

(2) 健康診断実施状況

種 別	実 施 月	対 象 者 数	受診者数	受診率(%)	要精検者
一般定期健康診断					
定期健康診断	第1回 7月	718	704	98.1	80
特定業務従事者健康診断	第2回 1月	564	524	92.9	81
雇用時健康診断	雇用時		53	-	4
特別定期健康診断					
有機溶剤等取扱者検診	第1回 7月	2	2	100.0	0
	第2回 1月	2	2	100.0	0
電離放射線業務従事者検診	第1回 7月	20	20	100.0	11
	第2回 1月	18	18	100.0	6
被曝線量測定	年12回		240	-	
臨時健康診断					
B型肝炎予防検診（抗原、抗体検査）	7月	対象全職種 88	88	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
B型肝炎予防ワクチン接種	第1回 8月	(希望者) 32	31	96.9	-
	第2回 9月	31	31	100.0	-
	第3回 1月	31	31	100.0	-
インフルエンザ予防ワクチン接種	11月	(希望者)	631	-	-
婦人科系検診（乳・子宮がん検診）	9月、10月	(希望者)	195	-	-
腹部超音波検診	1月	(希望者)	62	-	-
免疫4種抗体検査	7月	対象全職種 46	46	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
人間ドック					
事業団職員	10月～12月	(希望者)	78	-	-
一般衛生管理					
検 便	栄養士年24回		187	-	-

(3) 貸付事業の状況

区 分	人 員	貸 付 額	1 人 平 均
一 般 貸 付	1 人	2,000 千円	2,000 千円
特 別 貸 付	3 人	2,520 千円	840
計	4	4,520	1,130

9 経営計画に基づく取組状況

平成 28 年度からリハセンターの第二期指定管理期間が始まり、事業団は指定管理者として引き続き選定された。これを契機に、事業団は、平成 28 年 3 月にこれからの 10 年に向けリハセンターの役割・機能発揮と安定的な事業継続が図れるよう経営計画を策定した。

(1) 病院の取組状況

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の流行が 3 年目を迎え夏には第 7 波として史上最多の感染者数を記録した。当院も神奈川モデルの重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関・中和抗体療法外来拠点施設の役割を維持し、感染者数の急増に対して一時は I C U 病床を 6 床体制で稼働し対応したが、院内の感染対策の徹底によりクラスターを起こすことなく安定的に患者を受け入れることができた。さらに、新型コロナウイルスへの対応として、一般市民向けの 5,600 回を超えるワクチン接種を行うなど病院としての診療体制を維持しながら感染症対応にも尽力した。

さがみロボット産業特区における「筋電義手の処方・訓練」などの取組に対し「筋電義手バンク」が設置された。引き続き筋電義手の普及促進に向けて県の健康医療局とともに活動を進めていく。他にも、県産業労働局が実証実験フィールドとして位置づけ推進する「リハビリに役立つロボット」の開発・実用化への協力、県スポーツ局が推進する「障害者の運動促進に向けた取組」への協力など県立病院の役割として県施策に協力した。

病院機能の維持のためには医師の確保が重要であるが、常勤麻酔科医の確保が困難になった。非常勤や病院間の協力により手術機能は維持できたが、こうした中「特定行為に係る看護師の研修制度」を修了し、診療看護師として働く職員が周手術期の全身管理や麻酔管理の分野で活躍し医師の不足分をカバーした。

昨年度まで続いていたコロナ禍における患者の外来受診控えや入院患者数の減少による利用率低下に伴う収入減少は復調の傾向を見せ、地域連携の強化により対外的な活動を徐々に増やすことで入院・外来ともに患者の受け入れ数は上昇した。また、目標としている在宅復帰率について達成することができた。入院利用率は前年度、前々年度に比べ 3～5%ほど上昇し病院収入は前年度比で 1 億 9 千万円ほどの増収となるが、水道ガス光熱費の上昇による支出の増加を受け増収分が飲み込まれ、収支状況の回復は見込めない結果となった。

(2) 福祉施設の取組状況

令和4年度も前年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により感染予防対策を継続して運営に臨んだ。このことにより、短期入所及び通所利用の制限を継続せざるを得ず、全体として利用率は昨年度を若干下回る77.8%となった。新型コロナウイルス感染に関しては、予防対策を実施していたものの7月に児童部門の東ユニット内でクラスターが発生した。しかしながら県のクラスター対策班等の協力のもと対応をおこない重症化する利用者もおらず他部署への拡大もなく最小限に留め収束するに至った。一方、福祉局内の運営については、自立支援ホームでは、重度重複障害者への対応を目指し年度当初より肢体不自由部門と視覚障害者部門の一体化運営を実施するなど新たな試みを開始した。また、身体拘束ゼロに向けた取組をはじめ当事者目線の障がい福祉の実現に向けた実践を行い利用者支援の向上を目指す一年となった。しかし、介護、福祉業界の人材不足は深刻な状況であり、当事業所も例外ではないため、今後とも実習生の受入れの充実や魅力のある職場づくりとPRをより一層充実させる努力を継続していく必要がある。

■令和４年度事業計画の数値目標と実績

区分		令和４年度 目標①	令和４年度 実績②	差異 ②－①	令和３年度 実績③	差異 ②－③
学園 児童	家庭復帰率	81.0%	37.5%	▲ 43.5%	88.9%	▲ 51.4%
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	2.0人	1.0人	▲ 1.0人	1.0人	0.0人
	集中療育 (年間実利用者数)	8.5人	3.0人	▲ 5.5人	4.0人	▲ 1.0人
	1日平均利用者数	29.4人	26.0人	▲ 3.4人	26.6人	▲ 0.6人
	利用率	98.0%	86.7%	▲ 11.3%	88.8%	▲ 2.1%
学園 成人	家庭復帰率	61.0%	80.0%	19.0%	100.0%	▲ 20.0%
	医療重度障害者 (1日当たり受け入れ人数)	3.0人	5.0人	2.0人	5.0人	0.0人
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	6.0人	6.0人	0.0人	6.0人	0.0人
	1日平均利用者数	27.9人	21.8人	▲ 6.1人	29.0人	▲ 7.2人
	利用率	93.1%	72.5%	▲ 20.6%	96.6%	▲ 24.1%
学園	満足度	3.1点/4点	3.4点/4点	0.3点	3.4点/4点	0.0点
療育園	超・準超重症児 (1日当たり受け入れ人数)	10.0人	12.5人	2.5人	11.6人	0.9人
	短期入所 (1日当たり受け入れ人数)	4.8人	2.5人	▲ 2.3人	0.0人	2.5人
	満足度	3.7点/4点	3.9点/4点	0.2点	3.8点/4点	0.1点
	1日平均利用者数	37.8人	35.9人	▲ 1.9人	35.8人	0.1人
	利用率	97.0%	92.0%	▲ 5.0%	89.6%	2.4%
自立支援 ホーム	家庭復帰率	91.0%	90.3%	▲ 0.7%	89.5%	0.8%
	満足度	3.0点/4点	3.5点/4点	0.5点	3.6点/4点	▲ 0.1点
	1日平均利用者数	47.0人	34.0人	▲ 13.0人	32.5人	1.5人
	利用率	94.1%	68.1%	▲ 26.0%	64.9%	3.2%
神リハ 病院	家庭復帰率	81.0%	87.9%	6.9%	87.5%	0.4%
	年間手術件数	400件	387件	▲ 13件	340件	47件
	紹介件数	1,400件	2,453件	1,053件	2,038件	415件
	逆紹介件数	1,500件	1,652件	152件	1,608件	44件
	入院患者満足度	3.6点	3.6点	0.0点	3.6点	0.0点
	外来患者満足度		3.7点	0.1点	3.7点	0.0点
	入院患者利用率	90.0%	79.5%	▲ 10.5%	74.7%	4.8%
	一日平均入院患者数	252.0人	222.6人	▲ 29.4人	209.1人	13.5人
	外来1日平均利用数	300.0人	208.3人	▲ 91.7人	201.6人	6.7人
	後発医薬品品目採用率	50.0%	36.5%	▲ 13.5%	44.4%	▲ 7.9%
厚木看護 専門学校	国家試験合格率	100.0%	97.7%	▲ 2.3%	100.0%	▲ 2.3%
	県内就職率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	事業団への就職人数の目標	25人	23人	▲ 2人	19人	4人

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人

神奈川県総合リハビリテーション事業団